

ご注文やお問い合わせは
株式会社日新堂書店 まで

〒472-0052
愛知県知立市弘法1-5-16
電話：0566-83-0013
FAX：0566-82-3138
<https://chiryu-nissindo.co.jp>

日経BP



日経BP 予測・分析レポート

販売中商品のご案内

日経BP予測・分析レポートは、70点を超えるアイテムを取り揃えています。

本カタログでは、2024年秋発行の新刊を中心にご紹介しています。



※価格は全て10%税込 ※タイトルや発行日は変更になる場合があります。

全産業

AIビジネス事業創出・参入戦略
2025-2028

〔2024年9月13日発行〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p6
掲載

テクノロジー・ロードマップ2025-2034
全産業編

〔2024年11月29日発行〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p8
掲載

米国の再興戦略・
分析レポート2025

〔2024年8月30日発行〕

〔書籍のみ〕価格:330,000円

p10
掲載

未来調査2025-2029
全産業編

〔2024年12月25日発行予定〕

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

※書籍のみの販売はありません。

p11
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

グローバルシナリオ2035
全産業編

〔2023年10月20日発行〕

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:880,000円

※書籍のみの販売はありません。

p12
掲載

未来技術2025-2034
全産業編

〔2024年12月13日発行予定〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p15
掲載

分野別

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

テクノロジー・ロードマップ2023-2032
自動車・エネルギー編

〔2023年1月31日発行〕

〔書籍のみ〕価格:495,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:742,500円

p16
掲載

未来技術2025-2034
先端AI/ICT編

〔2025年2月17日発行予定〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p20
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

スポーツビジネスの未来
2021-2030

〔2020年11月26日発行〕

〔書籍のみ〕価格:550,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:825,000円

p21
掲載

未来技術2025-2034
先端AI/ICT編

〔2025年2月17日発行予定〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p21
掲載

有望技術

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

ウェルビーイング市場を拓く
技術開発戦略

〔2023年7月24日発行〕

〔書籍のみ〕価格:550,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:825,000円

p22
掲載

マテリアル革新<複合材/繊維/カーボン/セラミック/
シリカエアロゲル編>

〔2021年10月14日発行〕

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

※書籍のみの販売はありません。

p23
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

ウェルビーイングテック
最前線

〔2023年7月31日発行〕

〔書籍のみ〕価格:440,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:660,000円

p24
掲載

マテリアル革新<樹脂/バイオマス由来/CO2回収/
プロセス革新編>

〔2021年10月14日発行〕

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

※書籍のみの販売はありません。

p25
掲載

IT・エレクトロニクス

DXサーベイ2025-2027

〔2024年10月31日発行予定〕

〔書籍のみ〕価格:880,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:1,078,000円

p12
掲載

半導体チップレット
未来戦略

〔2024年12月10日発行予定〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p14
掲載

ロボット未来予測
2033

〔2024年2月22日発行〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p15
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

IoTセンサー未来戦略
2035

〔2023年10月31日発行〕

〔書籍のみ〕価格:880,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:1,078,000円

p16
掲載

テクノロジー・ロードマップ2022-2031
AI/ICT融合新産業編

〔2022年3月1日発行〕

〔書籍のみ〕価格:495,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:742,500円

p17
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

次世代AI戦略
2025

〔2021年2月8日発行〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p18
掲載

SIビジネス未来戦略

〔2025年1月31日発行予定〕

価格未定

※タイトルや発行日は変更になる場合があります。

p19
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

メタバース事業・構築戦略
調査編

〔2023年2月13日発行〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p20
掲載

非接触テクノロジー
実装戦略

〔2021年3月29日発行〕

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:550,000円

※書籍のみの販売はありません。

p21
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

製造業DX調査レポート

〔2025年1月31日発行予定〕

価格未定

※タイトルや発行日は変更になる場合があります。

p22
掲載

金融DX戦略レポート
2025-2029

〔2025年1月31日発行予定〕

価格未定

※タイトルや発行日は変更になる場合があります。

p23
掲載

エネルギー・宇宙・インフラ

グリーン・デジタル社会をつくる
インフラ事業構築&市場予測 2025-2050

〔2024年11月15日発行予定〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p16
掲載

電力調達・再エネ活用
戦略レポート

〔2024年2月13日発行〕

〔書籍のみ〕価格:880,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:1,320,000円

p20
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

インフラビジネスレポート2023
vol.2

〔2023年6月23日発行〕

〔書籍のみ〕価格:198,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:297,000円

p18
掲載

宇宙ビジネス
事業創出・参入戦略

〔2023年12月8日発行〕

〔書籍のみ〕価格:660,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:990,000円

p21
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

インフラビジネスレポート
2023

〔2022年12月22日発行〕

〔書籍のみ〕価格:198,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:297,000円

p19
掲載

世界洋上風力ビジネス
全体動向編

〔2022年11月30日発行〕

〔書籍のみ〕価格:550,000円

〔書籍とオンラインサービスのセット〕価格:825,000円

p20
掲載

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます

建設テック未来戦略 2025-2035

〔2024年12月12日発行予定〕

価格未定

※タイトルや発行日は変更になる場合があります。

p21
掲載

※価格は全て10%税込

エネルギー・宇宙・インフラ	
・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます	
世界水素ビジネス 全体動向編 [2020年7月31日発行] 【書籍のみ】 価格:550,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:825,000円	世界水素ビジネス 社会実装編 [2021年11月30日発行] 【書籍のみ】 価格:550,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:825,000円
木材ビジネス最前線 [2021年11月30日発行] 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:880,000円 ※書籍のみの販売はありません。	世界デジタル・スマートシティ総覧 [2021年9月30日発行] 【書籍のみ】 価格:550,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:825,000円
スマートシティ2025 ビジネスモデル/ファイナンス編 [2020年12月14日発行] 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:550,000円 ※書籍のみの販売はありません。	スマートシティ2025 未来シナリオ調査編 [2020年12月14日発行] 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:550,000円 ※書籍のみの販売はありません。

新ビジネス・マーケティング	
デジタル&データマーケティング市場分析2025-2027 [2024年11月8日発行予定] 【書籍のみ】 価格:550,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:825,000円	シニア成長市場分析&事業創出戦略 [2024年11月14日発行予定] 【書籍のみ】 価格:550,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:825,000円

未来ビジネス2024-2033 全産業編 [2024年2月29日発行] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円	消費トレンド2040 市場予測・ロードマップ [2024年2月13日発行] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円
---	---

SDGs・脱炭素	
・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます	
女性活躍戦略レポート2024 [2024年2月9日発行] 【書籍のみ】 価格:198,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:297,000円	カーボンニュートラル最前線 [2023年3月1日発行] 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:770,000円 ※書籍のみの販売はありません。
「望ましい未来」をつくるSDGsテック未来戦略 [2022年3月23日発行] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円	カーボンディスクロージャー未来戦略 [2022年2月21日発行] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円
脱炭素ビジネス未来戦略 [2022年2月18日発行] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円	GXビジネス未来戦略 [2025年2月発行予定] 価格未定 ※タイトルや発行日は変更になる場合があります。

EV・モビリティ	
世界EV総覧&技術戦略レポート2025 [2024年10月31日発行予定] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円	吉利汽車「ZEEKR 007」徹底分解 全体編 [2024年10月31日発行] 【書籍のみ】 価格:880,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:1,320,000円

生体センシング最前線2030 モビリティ編 [2024年10月10日発行] 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:880,000円 ※書籍のみの販売はありません。	p32 掲載
--	-----------

EV・モビリティ
・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます
電動モビリティ徹底分解 ハーレー/Super Soco/BMW/Segway-Ninebot [2024年1月19日発行] 【書籍のみ】 価格:880,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:1,320,000円

自動車産業2043 [2023年10月31日発行] 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:770,000円 ※書籍のみの販売はありません。

中国BYD「SEAL(海豹)」徹底分解 【全体編】 [2023年9月15日発行] 【書籍のみ】 価格:880,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:1,320,000円
--

中国EV市場調査 技術動向・サプライヤー分析 [2022年2月7日発行] 【書籍のみ】 価格:330,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:495,000円
--

フォルクスワーゲン「ID.3」徹底分解 【インバーター/モーター/電池編】 [2022年2月14日発行] 【書籍のみ】 価格:1,320,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:1,980,000円
--

4脚歩行ロボ「Spot」徹底分解 [2021年9月30日発行] 【書籍のみ】 価格:550,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:825,000円
--

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解 【ECU編】 [2019年12月30日発行] 【書籍のみ】 価格:1,320,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:1,980,000円

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解 【電池編】 [2020年3月16日発行] 【書籍のみ】 価格:1,100,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:1,650,000円

医療・健康・食農	
生体センシング最前線2030 ヘルスケア編 [2024年10月10日発行] 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:880,000円 ※書籍のみの販売はありません。	p33 掲載
デジタルヘルス未来戦略 有望市場・調査分析編 [2023年12月20日発行] 【書籍のみ】 価格:880,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:1,078,000円	p34 掲載

テクノロジー・ロードマップ2023-2032 医療・健康・食農編 [2023年3月1日発行] 【書籍のみ】 価格:495,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:742,500円	p35 掲載
--	-----------

・ウェブサイト(nbpm.jp/mirai)でご覧いただけます	
デジタルヘルス未来戦略 健康・医療・介護の技術動向と有望分野 [2022年10月31日発行] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円	医療・健康ビジネスの未来 2025-2034 [2024年12月13日発行] 【書籍のみ】 価格:660,000円 【書籍とオンラインサービスのセット】 価格:990,000円

AIビジネス事業創出・参入戦略 2025-2028

有望27領域のビジネスチャンスと市場予測
業種／業務機能／事業タイプ／機能要素別



NEW!

AI市場の動向

技術、海外市場、AIのリスクや規制まで詳解

主要16業種別 ビジネスチャンス

市場規模予測や成功事例など参入を
検討するために必要な情報を提示

業務別 / 技術別の市場予測

AI活用のニーズとソリューションを解説

AI分野の パートナーシップ選定戦略

パートナー企業の選び方やメリット・
留意すべき点を解説

AI活用でどのようなビジネスチャンスが
考えられるのか？ 市場規模はどこまで
伸びるのか？ 拡大するAIビジネスへの参入、
新規事業を検討される方に必携の1冊です。

生成AIの登場で、導入の拡大が続くAI市場。本レポート
は、AI市場の最新動向の把握や市場への参入、関連する
商品・サービス開発などに挑戦する企業・担当者に向け
て、市場の動向や市場規模の推移、ビジネスチャンスを独
自の視点でまとめたものです。

本レポートでは、主な16業種（農業、畜産業、製造業、運輸
業、小売業、建設業、医療など）を取り上げ、それぞれにお
けるAIビジネスの現状や市場の規模及び予測、現在の
キープレイヤーや成功事例、そしてビジネスの参入チャン
スを具体的に解説しています。また業種だけではなく、領域別
や機能要素別（AI技術別）、事業タイプ別の視点からも、
市場動向や2028年までの市場予測等を分析しています。

パートナー企業の選び方や付き合い方についても解説。
AIベンチャー企業やSI事業者相手だけではなく、異業種
のユーザー企業と組む場合も想定しています。またAI市場
のマクロ動向や周辺環境動向、ビジネスモデルの変化な
ども詳細に解説しています。

豊富な図表でマクロ及びミクロの両面からAIビジネスの
現状と未来を読み解く本レポートは、AIビジネスへの参入
を検討する方に必携の1冊です。

■ 著者：桑津浩太郎 ■ 編集：勝村幸博（日経クロステック）
■ レポート：A4判、494ページ ■ 2024年9月13日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN: 978-4-296-20372-7
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、
ISBN: 978-4-296-20374-1

目次

第0章 エグゼクティブサマリー

- 0-1 AI事業・投資の可能性
 - AIが世の中を変える
- 0-2 本レポートの使い方
 - 想定読者 ● 本レポートの読み方

第1章 AI市場のマクロ動向

- 1-1 AI市場のマクロ動向
 - 生成AIによる「AIの民主化」
 - 深層学習までのAIと生成AIの相違
 - 生成AIがAI市場に与える影響 ● 世界のAI市場規模 ほか
- 1-2 AI技術の動向
 - 生成AIの大規模化 ● 生成AIの最適化
 - 分散アーキテクチャー ● マルチモーダル化
 - AI向け半導体の動向 ● ポスト生成AIの動向 ● AIリスク

第2章 AI市場の周辺環境動向

- 2-1 労働力不足とAI
 - AIが果たす役割 ● 移民による労働力減少の解決
 - リスキリングによる労働力減少の解決 ほか
- 2-2 海外市場の動向
 - 米国のAI市場 ● 中国のAI市場 ● 欧州のAI市場
- 2-3 AIリスク及び規制の動向
 - 倫理領域におけるAIリスク ● 社会領域におけるAIリスク
 - 米国のAI規制 ● 欧州のAI規制 ● 中国のAI規制
 - 日本のAI規制 ● 軍事利用に関する規制

第3章 ビジネスモデルの変化

- 3-1 AI導入の現状
 - AIがもたらす職業代替の危機意識
 - AIが代替可能な職業
 - AIが変える労働と業務 ほか
- 3-2 AI導入の課題と対応
 - 自動運転における課題と対応策
 - AIやロボットに対する固定観念
 - 100点のシステムを狙わない ほか

第4章 業種別AI市場の動向・市場規模予測 (2022～2028年)

- 4-1 農業
- 4-2 畜産業
- 4-3 製造業（組立）
- 4-4 製造業（プロセス）
- 4-5 セキュリティサービス
- 4-6 運輸業
- 4-7 小売業
- 4-8 卸売業
- 4-9 金融業
- 4-10 エネルギー業
- 4-11 通信業
- 4-12 建設業
- 4-13 不動産業
- 4-14 教育産業
- 4-15 医療
- 4-16 広告業

【10の切り口で業種別に解説します】

- サマリー
- AI導入の現状
- AI及びAIソリューション市場規模予測
- AI化を実現・促進する代表的な技術・動向
- 生成AIのインパクトや活用状況
- 顕著な成功事例、注目事例やビジネスモデルの転換例
- 当該分野の有力企業
- AI導入に向けた課題（技術・環境・投資）
- AI化指標（AIによる代替、想定ポテンシャル等）
- イノベーションの展望と参入チャンス

第5章 業務機能別AI市場の動向・ 市場規模予測（2022～2028年）

- 5-1 フィールド
 - フィールドAIの市場規模
 - フィールドAIにおける自動認識
- 5-2 マーケティング
 - AIで変わるマーケティングの常識
 - マーケティング領域におけるAI活用
- 5-3 オフィス
 - オフィス領域における生成AI
 - 生成AIの圧倒的な存在感

第6章 機能要素別AI市場の動向・ 市場規模予測（2022～2028年）

- 6-1 画像認識
 - 画像認識の市場予測 ● 画像認識の市場動向 ほか
- 6-2 音声認識
 - 音声認識の市場動向 ● 音声認識の市場規模 ほか
- 6-3 翻訳
 - 翻訳の市場規模 ● 翻訳の技術動向と生成AI
- 6-4 コンテンツ生成
 - コンテンツ生成の市場動向 ● コンテンツ生成の課題 ほか
- 6-5 AIキャラクター
 - AIキャラクターの市場動向 ● AIキャラクターの市場予測 ほか
- 6-6 操縦
 - 操縦の市場動向 ● 操縦の市場予測 ● 操縦の技術動向
- 6-7 ハンドリング
 - ハンドリングの市場動向 ● ハンドリングの市場予測 ほか
- 6-8 学習・モデル化
 - 学習・モデル化の投資動向 ほか

第7章 事業タイプ別の課題と戦略分析

- 7-1 AIベンチャー企業
 - AIベンチャー企業における課題 ほか
- 7-2 製造業
 - 製造業におけるAIの課題 ほか
- 7-3 インフラ系企業
 - インフラ系企業におけるAIの課題 ほか
- 7-4 金融業
 - 金融業におけるAIの課題 ほか
- 7-5 運輸業・流通業
 - 運輸業・流通業におけるAIの課題 ほか
- 7-6 ITソリューション（独立系）
 - ITソリューション（独立系）におけるAIの課題 ほか
- 7-7 ITソリューション（子会社系）
 - ITソリューション（子会社系）におけるAIの課題 ほか

第8章 AI分野のパートナーシップ選定戦略

- 8-1 AIベンチャー企業
 - AIベンチャー企業に対する課題
 - AIベンチャー企業とのパートナーシップ
- 8-2 総合SI・コンサルティング事業者
 - 総合SI・コンサルティング事業者に対する課題
 - 総合SI・コンサルティング事業者とのパートナーシップ戦略
- 8-3 異業種パートナーシップ
 - パートナーシップ形成時の業種別留意点
 - 広告代理店とのパートナーシップ戦略
 - インフラ系事業者（電力・ガス・鉄道等）とのパートナーシップ戦略
 - 不動産業・デベロッパーとのパートナーシップ戦略
 - 商社とのパートナーシップ戦略
 - 自動車メーカーとのパートナーシップ戦略
 - 金融業とのパートナーシップ戦略
 - 自治体とのパートナーシップ戦略

テクノロジー・ロードマップ 2025-2034 全産業編

これからイノベーションを起こす「技術」を捉え、
経営・事業戦略をつくる



イノベーションを起こす
127テーマを選定

未来の「市場の姿」と
「必要な商品機能」を提示

これから10年間の
「技術の進化」を予測

経営企画部門と
技術開発部門が議論する際に
役立つ戦略ツール

127の市場ニーズと商品・技術の 進化を読み解く R&D戦略立案に 「使える」技術予測の決定版

「市場ニーズ」を展望し、それらを満たす「商品機能」を定義、その機能を実現するための「技術」を提示する。『テクノロジー・ロードマップ 全産業編』はこのアプローチで、今後10年進化していく「市場」「商品」「技術」を描いています。2013年の創刊以来、アップデートを続け、これまで2000社超の企業が活用。今回の改訂版で取り上げる技術テーマ数は127。慢性的な人材不足を背景に大きな関心を集める「無人化・省人化」に関する新章を設けたほか、「介護DX」「ESG情報管理」「未病対策」「AIチップ」など話題の技術テーマを加えます。テーマの見直しと同時に、AIなど新技術の進展と実装を踏まえ、各テーマのロードマップを改訂した全面刷新版です。

「第1部 未来課題・業際編 [ソーシャル・イノベーション]」では、社会や経済、環境あるいは人間そのものについてイノベーションを起こすテーマを取り上げ、「第2部 業種・業界編 [インダストリー・イノベーション]」では「モビリティ」「医療」「健康」「ロボット」「エレクトロニクス」「情報通信」「材料/製造」「金融」などの業界でイノベーションを起こすテーマを選んでいきます。技術系企業のR&D戦略立案に役立つコンテンツが満載です。ぜひ、ご活用ください。

■ 著者：出川 通 ほか約90名
■ レポート：A4判、約600ページ ■ 2024年11月29日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20585-1
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20587-5

目次

※目次は変更になる場合があります。

第1部 未来課題・業際編 [ソーシャル・イノベーション]

- 第1章 **社会・経済安全保障**
安心・安全スーパーシティ/災害予測・対応/人流最適化/インフラのメンテナンスフリー化など
- 第2章 **ネイチャーポジティブ**
食の安心・安全/代替フード/環境保全型農業/サーキュラーエコノミー/ESG情報管理/モバイル建築など
- 第3章 **グリーンイノベーション**
人工光合成/核融合エネルギー/有機系太陽電池/全固体電池
- 第4章 **ヒトの能力拡張**
AI学習とヒトの協働/変革（ゼロイチ）人材育成/リカレント教育/データドリブン人事など
- 第5章 **エンターテインメント**
ITスポーツ/自由視点映像/観光地域づくり/シェアリングエコノミー/NFTなど
- 第6章 **無人化・省人**
現場の無人化/少人化/職人技のデジタル化と継承/現場のマシン間コミュニケーション
- 第7章 **デジタルトランスフォーメーション（DX）**
製造DX/物流DX/介護DX/教育とICT（EdTech）/デジタルIDなど
- 第8章 **時空/意識の超越**
メタバースコミュニティ/五感インタラクションとXR/リモートとメタバース（空間超越）など

第2部 業種・業界編 [インダストリー・イノベーション]

- 第9章 **モビリティ**
スマートモビリティ/AIとモビリティ/遠隔運転/e-モビリティと先端部品産業など
- 第10章 **医療**
AIと医療/先制医療/遺伝子解析医療/ゲノム編集/在宅医療がん医療など
- 第11章 **健康**
予防医療/認知症対策/AIプロテオミクス/身体動作支援/未病対策（個別化予防）など
- 第12章 **ロボット**
ロボットフレンドリーシティ/コミュニケーションロボット/介護ロボットなど
- 第13章 **エレクトロニクス**
スマートメガネ/スマートコンパニオン/パーソナルセーフティ/パワー半導体など

- 第14章 **情報通信**
量子コンピュータ/E4I（Edge for Industries）/次世代放送（5G放送）/ホームメンテナンスなど
- 第15章 **材料/製造**
マテリアルズインフォマティクス/メタマテリアル/セルロースナノファイバー/AIチップなど
- 第16章 **金融**
フィンテック/ブロックチェーン/株価予測など
- 第17章 **農業/食品工業**
健康食品/3Dフードプリンティング/AgriFood Tech/細胞農業など
- 第18章 **社会インフラ**
気象・微気象情報インフラ/水素・アンモニア産業/電力産業など
- 第19章 **航空宇宙**
宇宙居住技術/宇宙探査ロボット技術/太陽系探査/小型衛星/リモートセンシングなど



1つの技術テーマに関して「2ページの解説記事」と「1枚のロードマップ」で簡潔明瞭に今後10年の流れを予測します。

米国の再興戦略・分析レポート2025

貿易・通商、自動車、製薬、エネルギー、
対中国戦略、安全保障

NEW!

米国の再興戦略・
分析レポート2025

著者
編集
監修
上田孝一
日経BP
未来調査

貿易・通商
自動車
製薬
エネルギー
対中国戦略
安全保障

日本企業への影響は？
トランプの選挙公約を
ビジネス視点で分析

トランプとハリス、
どちらが勝っても
実行される
米国の戦略がわかる

「日本企業はどう動くべきか」
を15のポイント別に提言

日本企業や産業への影響を解説。 アメリカ大統領選を ビジネス視点で徹底分析しました。

米国の戦略が、日本企業の戦略に大きな影響を与えることは言うまでもありません。もし、トランプが再び大統領に選出されたら、何が起きるのか？本レポートでは、米国の戦略に大転換が起きるケース、すなわちドナルド・トランプが勝利した場合を想定した戦略転換に力点を置いて、日本企業への影響について詳細に分析しています。

まず、トランプが選挙公約として発表している47の公約を①貿易・通商、②自動車、③エネルギー、④対中国戦略、⑤製薬、⑥安全保障という6つの観点から詳細に分析し、日本企業のグローバル戦略への影響を考察しています。

次に、民主・共和両陣営の相違点、そしてどちらが勝とうが実行されるとみるべき共通した米国の戦略シナリオを明らかにしています。これらから、2025年1月20日の新大統領就任後に日本企業が取るべきグローバル戦略(何を、どこで作り、どこへ売なのか、など)のヒントを提示しています。米国の再興戦略をいち早く読み解き、貴社の戦略策定にお役立てください。

目次

序章 ビジネス視点で大統領選を捉えると、米国の再興戦略が見えてくる

第1章 米大統領選の行方を左右するスイングステート

第2章 トランプのアジェンダ47をビジネス視点で分析

貿易・通商政策の分析／自動車政策の分析／エネルギー政策の分析／対中国政策の分析／製薬政策の分析／安全保障政策の分析

第3章 選挙戦を見据えたバイデン-ハリス政権の最近の動き

グリーンカー／環境・エネルギー／貿易・通商に関する政策 ほか

第4章 どちらが勝とうが実行される米国戦略

明らかになってきた米国の狙い

●中国を抑え込むための半導体規制 ●「経済的安全保障」と「製造業の再興」は表裏一体 ほか
米国は、中国を国際経済圏から切り離すことも辞さない構え

●米国による軍事・経済ブロック形成 ●中国による軍事・経済ブロック形成 ほか

「中国製造2025」と「中国標準2035」

「中国製造2025」に対抗する「米国版製造業育成イニシアチブ」

トランプとバイデンで異なる政策

●貿易・通商政策に関する比較 ●自動車政策に関する比較 ●エネルギー政策と環境対策に関する比較 ●対中国戦略に関する比較 ●製薬政策に関する比較 ●安全保障政策に関する比較

第5章 日本企業へのメッセージ

グローバルサプライチェーンの再構築

●米国のインド太平洋戦略の狙いを理解する ●米国のインド太平洋戦略の進捗状況 ●日本企業のグローバルサプライチェーンの考え方 ●日本が付き合うべき優先国をA～Cでランキング ●中国主導のBRICS寄りに動く場合は要注意

自動車産業戦略の留意点 ●欧米はEVシフト一辺倒の政策を見直し始めた ●足並みを揃えて中国製EVをストップ ●中国EV産業の現状 ●米国への輸出は、第三国経由のルートも規制される恐れ ●中国国内で消費する分は中国で作る ●中国で生産を継続する場合の留意点

「中国製造2025」に掲載されたリストの活用法

国際情勢の読み方

■ 著者：恩田達紀、日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、116ページ ■ 2024年8月30日発行
■ 【書籍のみ】価格：330,000円(10%税込)、
ISBN：978-4-296-20654-4

未来調査 2025-2029 全産業編

新ビジネスのヒントが満載! ビジネスリーダーが
関心を寄せる110超のテーマを調査分析

NEW!

未来調査
2025-2029
全産業編

著者
編集
監修
上田孝一
日経BP
未来調査

「事業開発、商品企画、技術開発」
戦略立案に役立つ

「2024年問題」など、ビジネスシーンで
関心の高いテーマの調査や分析を拡充

特集調査では、無人化/省人化/超人化
を実現するテクノロジーや
生成AI活用の未来を考察

誌面や装丁デザインを刷新。
図表やグラフが、より見やすく使いやすく

延べ3.5万人のビジネスリーダー への調査から 次のビジネスを読む 未来のエビデンス集

本レポートは、事業戦略立案や新規事業開発、商品企画の推進で必要となる未来のエビデンス(客観的な裏付け)集です。日経BP 総合研究所が4年半・46回にわたって継続している独自調査プロジェクト「5年後の未来に関する調査」で、経営者や次世代リーダーを中心とする延べ3.5万人を超える回答者から基礎データを蓄積。2024年問題、ウェルビーイング、生成AI、無人化/省人化/超人化、宇宙、インド、BMI、GXなど、話題のテーマについて、社会的な背景に基づく定量・客観的なアプローチで詳細に分析。社会やビジネスの未来像を、約300の豊富なビジュアルデータを組み合わせて立体的に提示します。特集調査では、働く場所や時間の使い方、生活の場、賃金などに関する調査をベースに、無人化/省人化/超人化を実現するテクノロジーや生成AI活用の未来を考察します。また、レポート創刊3周年を機に、誌面デザインを刷新。5年後の未来に向けたエビデンスが直感的に理解できるようレイアウトし、図表やグラフをより見やすく使いやすくしています。

■ 監修：日経BP 総合研究所 未来ビジネス調査チーム
■ レポート：A4判、約550ページ ■ 2024年12月25日発行(予定)
■ 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円(10%税込)、
ISBN：978-4-296-20604-9 ※書籍のみの販売はありません。

目次

※目次や内容、表紙デザイン、発行日等は変更になる場合があります。

第1章 総論

第2章 特集：5年後の『2024年問題』とテクノロジー

第3章 世界のビジネス環境

世界全体／日本／米国／欧州／中国／新興国／海外販売拠点／海外生産拠点 ほか

第4章 産業の成長と減退

製造業／建設、不動産、エネルギー／物流・運輸、小売、卸売・商社 ほか

第5章 企業を取り巻く課題と投資意欲

注目のビジネスキーワードへの期待／生成AI／メタバース／シェアリングサービスの成長 ほか

第6章 人材戦略

2024年問題の影響／人材不足の加速と求められる人材像／新卒採用と中途採用 ほか

第7章 働き方／街／生活の変化

テレワークの未来／オフィススペースの未来／働き方の多様化 ほか

第8章 カーボンニュートラルとサステナビリティ経営

企業が直面する課題とカーボンニュートラル／カーボンニュートラル目標達成時期 ほか

第9章 経済安全保障

経済安全保障への取り組み／法整備の影響／経済安全保障の影響 ほか

第10章 テクノロジー／サービス

テクノロジー総論／医療・健康・食農／モビリティ、移動 ほか

第11章 産業別の未来調査

自動車／エレクトロニクス／素材・材料／建設・不動産／IT・通信 ほか

DXサーベイ 2025-2027

936社の課題分析、成功・失敗の要因と投資意向
生成AI活用／GX・SX／データドリブン経営

NEW!



日本企業936社
デジタル化実態調査2024

936社のDX施策、
生成AI活用／GX・SX／
データ経営の実態と課題

先進15社のDX戦略や
推進体制を分析

主要ITベンダー/コンサル
19社の顧客満足度・
期待度調査

936社のデジタル化実態調査、
先進企業の戦略、ITベンダー/コンサルの
顧客満足度、期待度調査…「攻めのDX」で
成果を上げるための指南書です

デジタルトランスフォーメーション(DX)は2025年、新たな
段階に入ります。

ChatGPTの登場以来、急速に進化しつつある生成AI。
企業活動による環境影響の可視化が求められるグリーン
トランスフォーメーション(GX)／サステナビリティートラン
スフォーメーション(SX)。基幹システムを刷新し「2025年
の崖」を越えた先に見えるデータドリブン経営。2025年か
らの「DX3カ年計画」を策定するうえで、これら3領域の最
新トレンドを押さえることは不可欠です。

本レポート『DXサーベイ 2025-2027』は、生成AI活用／
GX・SX／データ経営の実態と展望を含め、全国の企業
936社のDXを多面的に調査・分析することで本質を明ら
かにし、「攻めのDX」で成果を上げるための勘所を示した
指南書です。「現状と課題を知る」「成功企業に学ぶ」「適
切なDXパートナー(ITベンダー／コンサルティング会社)を
見極める」という3要素について、豊富なデータと事例に
基づき徹底解説した「DX成功への必携の書」と言える一
冊です。

■ 著者：日経BP クロスメディア編集部 編集委員 浅川 直輝、
日経BP 総合研究所 イノベーションICTラボ 上席研究員 渡辺 享靖
■ 編集：日経クロステック ■ レポート：A4判、428ページ
■ 2024年10月31日発行(予定)
■ 【書籍のみ】価格：880,000円(10%税込)、
ISBN：978-4-296-20611-7
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：1,078,000円(10%税込)、
ISBN：978-4-296-20613-1

目次

※目次や内容、発行日等は変更になる場合があります。

第1章

デジタル変革を巡る変化、未来への針路

- 1-1 エグゼクティブサマリー
●生成AIブームが示すDX成功企業の条件
- 1-2 DX投資動向
●DX投資は企業の4割超が増額へ ほか
- 1-3 DXの見直し・強化策
●DXの2大強化策、DX人材の育成と組織風土改革 ほか
- 1-4 「2025年の崖」問題の深刻度
●「2025年の崖」問題、半数以上の企業が「深刻」と回答 ほか
- 1-5 DX領域で採用・育成すべき人材像
●DX領域で採用・育成を強化すべき人材像、
変革リーダーは不動の首位
- 1-6 生成AIの活用状況
●生成AIの「全社活用」は大企業が中小企業の15倍 ほか
- 1-7 GX／SXへの対応動向
●スコープ3算定の仕組み、4割の企業が構築に前向き
- 1-8 「データドリブン経営」への取り組み
●データドリブン経営、4割が実現に前向き ほか

第2章

936社独自調査、DXの課題と展望

- 2-1 デジタル化実態調査の概要
- 2-2 7大経営課題の緊急度
- 2-3 DXの推進状況
- 2-4 DXの目的
- 2-5 「DXの重要性」の変化
- 2-6 DXに関する経営トップの姿勢
- 2-7 DXを主導するリーダーに求められる資質
- 2-8 DXプロジェクトの成果
- 2-9 DXへの理解・協力が不足している部門
- 2-10 DXを推進するための見直し・強化策
- 2-11 生成AI時代を見据えたDX投資動向
- 2-12 DX投資を増やす理由
- 2-13 ITシステム4領域のウェイト配分
- 2-14 DX関連技術・ソリューション24項目の導入状況と重視度
- 2-15 データ収集・分析の導入状況
- 2-16 生成AIの導入状況
- 2-17 認識・予測AIの導入状況
- 2-18 クラウドの導入状況
- 2-19 ERPの導入状況
- 2-20 ノーコード／ローコード開発の導入状況
- 2-21 アジャイル手法の導入状況
- 2-22 不正検知／ゼロトラストの導入状況
- 2-23 IoTシステムの導入状況
- 2-24 DXパートナーの選定基準と重視度ランキング
- 2-25 DX領域で採用・育成すべき人材像
- 2-26 DX人材の育成策
- 2-27 「2025年の崖」問題の深刻度
- 2-28 基幹システムの今後

第3章

936社のDX施策、生成AI・ GX／SX・データ経営の実態と課題

- 3-1 生成AIの活用状況
- 3-2 生成AI活用の理由
- 3-3 生成AIを活用している業務
- 3-4 活用／試用している生成AI関連サービス
- 3-5 生成AIサービス選定時に重視する項目
- 3-6 生成AI活用における工夫
- 3-7 生成AI活用における課題
- 3-8 生成AIを導入していない理由
- 3-9 「スコープ1・2」算定の仕組みの整備状況
- 3-10 「スコープ3」算定の仕組みの整備状況
- 3-11 温暖化ガス排出量の算定・抑制に向けたIT部門の施策
- 3-12 「データドリブン経営」への取り組み
- 3-13 データドリブン経営に向け実践している項目
- 3-14 データドリブン経営推進へ投資を増やしている
IT製品／サービス
- 3-15 データドリブン経営の導入を阻む要因

第4章

成功企業／先進企業15社のDX戦略

- 4-1 アシックス
- 4-2 荏原製作所
- 4-3 大林組
- 4-4 花王
- 4-5 クレディセゾン
- 4-6 JFEスチール
- 4-7 中外製薬
- 4-8 東京エレクトロン
- 4-9 TOPPANグループ
- 4-10 トヨタ自動車
- 4-11 日清食品グループ
- 4-12 日本郵船
- 4-13 パナソニックグループ
- 4-14 三井物産
- 4-15 三菱重工業

第5章

主要ITベンダー／コンサル19社の 顧客満足度

- 5-1 領域別のDXパートナー満足度ランキング
●委託実績に基づくDXパートナーの満足度を集計
●「A. デジタル化戦略の立案」領域の顧客満足度ランキング
●「B. 生成AIの導入・活用支援力」領域の顧客満足度ランキング
●「C. クラウドやデータ分析など最新技術を使った
システムの構築力」領域の顧客満足度ランキング
●「D. 基幹システムの構築」領域の顧客満足度ランキング
●「E. ビジネス変革支援・推進力」領域の顧客満足度ランキング
●「F. 総合力」領域の顧客満足度ランキング
●「G. グローバル対応力」領域の顧客満足度ランキング
●「H. サービス料金の妥当性」領域の顧客満足度ランキング

第6章

主要ITベンダー／コンサル19社の 顧客期待度

- 6-1 領域別のDXパートナー期待度ランキング
●「委託したい」と思うDXパートナーを8領域別に集計
●スコア合計の総合期待度ランキング順位
●「A. デジタル化戦略の立案」領域の期待度ランキング
●「B. 生成AIの導入・活用支援力」領域の期待度ランキング
●「C. クラウドやデータ分析など最新技術を使った
システムの構築力」領域の期待度ランキング
●「D. 基幹システムの構築」領域の期待度ランキング
●「E. ビジネス変革支援・推進力」領域の期待度ランキング
●「F. 総合力」領域の期待度ランキング
●「G. グローバル対応力」領域の期待度ランキング
●「H. サービス料金の妥当性」領域の期待度ランキング

第7章

主要ITベンダー／コンサル15社の DX方法論

- 7-1 アクセンチュア
- 7-2 アビームコンサルティング
- 7-3 NEC
- 7-4 NTTデータ
- 7-5 KPMGコンサルティング
- 7-6 シグマクシス
- 7-7 セールスフォース・ジャパン
- 7-8 TIS
- 7-9 デル・テクノロジーズ
- 7-10 日本オラクル
- 7-11 野村総合研究所
- 7-12 PwCコンサルティング
- 7-13 BIPROGY
- 7-14 日立製作所
- 7-15 富士通

半導体チップレット 未来戦略

ビジネスチャンスと技術・用途拡大ロードマップ
サプライチェーンの全貌 ― 設計・装置・材料・ソフトウェア



チップレット市場の拡大期において
新規参入や事業拡大の可能性が
どこにあるかがわかる

最先端コンピューティング、自動車、
モバイル機器、産業機器などの
未来像から必要な投資のポイントがわかる

チップレット市場の拡大で、
サプライチェーンがどう変わるのかがわかる

世界のCPU、GPU、NPUなどの動きと
企業動向から自社の戦略を描ける

半導体のサプライチェーン、
設計、装置、材料、ソフトウェアは
チップレット勃興でどう変わるのか？
用途、市場はどこまで広がるのか？

今、「半導体チップレット」という新しい市場が生まれようとしています。半導体の進化を描いた「ムーアの法則」に沿って進んできた微細化が曲がり角を迎え、次世代の半導体を開発し続けるために設計手法から見直す必要に迫られているからです。本レポートは、この大きな動きをビジネスの側面、技術の側面、企業動向からまとめたものです。半導体進化の歴史における変曲点といえるチップレットのインパクト、アプリケーションの進化とロードマップ、企業が描く新しいビジネスモデル、実現すべき半導体エコシステムと経済圏をまとめ、さらに、チップレットを支える技術全体像と設計技術、製造技術、ソフトウェア環境の観点、そして世界の企業動向などを解説します。豊富な図表で半導体チップレットのビジネスの現状と未来を読み解く本レポートは、半導体関連の事業者はもちろん、半導体のユーザー、これから事業参入を検討する方に必携の1冊です。

- 著者・編集：日経BP 総合研究所、日経クロステック
- レポート：A4判、約450ページ
- 2024年12月10日発行（予定）
- 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20619-3
- 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20621-6

目次

※目次や内容、発行日等は変更になる場合があります。

第0章 このレポートの読み方

第1章 チップレットが生み出す新事業と新産業

チップレットの定義／チップレットの必然性／拡大する市場と激変するサプライチェーン／市場勃興のシナリオ分析／日本企業の課題とチップレットで主導権を握るための突破口

第2章 未来シナリオとロードマップ

AIが主導するアプリケーションの進化とチップレット／クラウドの未来とチップレット／エッジ端末の未来とチップレット／自動車の未来とチップレット／産業/社会システムの未来とチップレット／チップレットおよび半導体実装技術のロードマップ

第3章 ビジネスモデルとサプライチェーン、
新プレイヤーの出現

チップレット時代の産業構造とビジネスモデル／生産ラインシミュレーション／市場規模／新プレイヤーの出現と業種別からの主導権／日本の強化につながる分野

第4章 チップレットの製造技術

チップレット製造トレンドと今後／構造・組み立て・製造・材料技術

第5章 チップレットの設計技術

エッジAIの可能性と大脳への挑戦／EDAツールの進化が支えるチップレット、1nmを超えて／設計・開発コストの削減に挑むチップレット／熱設計技術

第6章 ソフトウェアの重要性和課題

第7章 市場・技術をリードする企業の動向

設計・製造プレイヤーの戦略／装置・材料プレイヤーの動向

ロボット未来予測 2033

AIで激変する活用・開発ロードマップ
市場規模／企業の導入・投資意向調査



市場の成長シナリオ・
市場規模予測

AIで超進化するロボット6選
&技術ロードマップ

ロボット関連の5大AI技術

ロボット導入・投資意向調査

市場の成長シナリオ・
市場規模予測からAIで激変する
ロボット6選の解説まで

大規模言語モデルや機械学習といった人工知能の進歩が、ロボット技術に大きな発展をもたらし始めています。導入時のティーチングが簡単になる、より人に近い動きができる、などこれまでにない能力を備えたAIロボットに対し、導入企業の期待が大きく高まっています。労働力不足を解消する切り札となる協働ロボットや配送ロボット、建設ロボット、自動運転車などが注目を浴びています。本レポートでは、すでに工場などで活用されている産業用ロボットを含めて2033年までの各ロボット市場を展望しながら市場規模を予測するとともに、各市場への事業機会を最新情報により分析し、AIロボットの技術動向と活用イメージを予測します。さらにロボット導入企業など469社と、現場686人のそれぞれに導入時期と投資の意向について調査した結果も収録しています。ロボットの開発戦略の策定に必要な情報を網羅した一冊です。

- 執筆：東京海上ホールディングス株式会社
シニアデジタルエキスパート 園田展人、
デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
- 編集：日経クロステック
- レポート：A4判、456ページ ■ 2024年2月22日発行
- 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20363-5
- 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20365-9

目次

第0章 イントロダクション

第1章 ロボット市場予測

市場拡大への技術見通し ●社会課題に対応するロボットとクラウド／主要ロボットの成長シナリオ・市場規模予測 ●産業用ロボット（要約、市場概観、成長シナリオ、普及動向）／産業用ロボット普及の業界別動向・市場規模予測 ●今後ロボット導入の増加が期待される業界 ●バッテリー業界（要約、市場規模予測、背景、業界動向、課題、今後）ほか

第2章 AIで変貌し始めたロボット

なぜ今、AIロボットなのか ●ロボット大変革への対応が急務に ●Transformerの登場でロボット研究開発が変容／注目すべき5つのAI技術と6つのロボット ●協働ロボットや自動運転車などを選定 ●開発目標を特定しロードマップを提示

第3章 ロボットに影響を与える5大AI技術

大規模モデルによるロボティクス基盤モデル ●大規模モデルが起す2つのブレイクスルー／模倣学習・深層強化学習 ●ロボティクス分野に新たな展開／Sim-to-Realとデジタルツイン ●シミュレーターと現実世界のギャップ／生成エージェント ●ロボット導入前に生産性や安全性を評価／MCS-AI動的連携モデル ●街で活躍するロボットとメタAIが連携ほか

第4章 AIで超進化するロボット6選

協働ロボット ●協働ロボットの定義／配送ロボット ●配送ロボットの定義／建設ロボット ●建設ロボットの定義／物流倉庫ロボット ●物流ロボットの定義／家庭ロボット ●家庭ロボットの定義／自動運転車 ●自動運転の定義ほか

第5章 ロボット導入・投資意向調査【企業469社&現場686人】

調査概要 ●調査概要【企業調査・現場調査】／ロボット利用と満足度の現状 ●ロボット利用状況【企業調査】／今後のロボットの導入意向 ●今後のロボット増設・導入の予定・計画【企業調査】／今後3年間のロボットへの投資意向 ●ロボットへの投資・事業判断の決定権者【企業調査】／AIロボットへの期待 ●AIロボットへ何を期待するか【企業調査・現場調査】／AIロボットの現場活用イメージと課題 ●AIロボット導入・活用の可能性【現場調査】／AIロボットへの投資と導入時期 ●AIロボットに対する3年後の投資額【企業調査】／AIロボットの課題と相談先 ●AIロボットの課題【企業調査・現場調査】ほか

蓄電池ビジネス戦略レポート

市場予測／政策／サプライチェーン／
ビジネスモデル／プレイヤー分析／技術動向

NEW!

蓄電池
ビジネス
戦略レポート

蓄電池ビジネスへの 参入検討に必要な情報を網羅

市場予測、政策、サプライチェーン、
ビジネスモデル、プレイヤー分析、技術動向まで

日本・欧米・中国などの 市場動向、将来予測を掲載

車載用蓄電池の2035年市場予測、定置用蓄電池の
2030年市場予測などを市場動向と共に提示

各国の政策、サプライチェーン、 先端技術の動向を分析

複雑なサプライチェーンをプロセス別に分析、
世界の産業政策、技術開発動向も解説

先行するビジネスモデルや プレイヤー事例を多数紹介

系統用蓄電池、業務・住宅用蓄電池の
ビジネスモデルを解説。世界50社以上の動向を調査

市場予測から産業政策、サプライチェーン、 ビジネスモデル、技術開発動向まで 蓄電池ビジネス戦略のエッセンスが一冊に！

いよいよ離陸間近の蓄電池ビジネス。目下、急成長を続ける蓄電池市場の周辺では、新しいビジネスが続々と生まれつつあります。こうした蓄電池ビジネスに関わる企業や、蓄電池ビジネスへの投資、新たなビジネスへの参入を検討する様々な業種の企業が必要とする情報を一冊にまとめたのが本レポートです。

系統用、業務用、住宅用を含む定置用（エネルギービジネス向け）や車載用といった主要な用途を網羅する形で、

- 市場予測——車載用、定置用蓄電池の市場予測
- 産業政策——中国、欧州、北米、韓国、日本
- サプライチェーン分析
- ビジネスモデル解説
- キープレイヤーの分析
- 技術開発動向

という、多様な観点で蓄電池ビジネスをひも解きました。

蓄電池の分野では、モビリティの進化やエネルギー革新の波に乗り新しい技術や応用が次々と登場する一方で、世界各国が経済安全保障の焦点として重視するようになったこともあり、その動向を把握することが難しくなっています。こうした中で、蓄電池を巡る動きを包括的に把握するために必要な情報をまとめて分析した本レポートは、蓄電池を巡る事業や関連する研究開発の戦略策定に役立つはずです。ぜひご活用ください。

【こんな方にお勧めです】

- 建設会社やプラントメーカー、不動産会社、金融機関、コンサルティング会社などで蓄電池ビジネスへの投資を検討している企業
- 新たなビジネスへの参入を検討する様々な業種の企業（エネルギー企業、電機メーカー、自動車関連企業、インフラの構築・運用に関わる企業など）

- 著者：大串 康彦、高木 裕登、アーサー・ディ・リトル・ジャパン
- レポート：A4判、約350ページ ■ 2024年11月29日発行（予定）
- 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、ISBN:978-4-296-20608-7
- 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、ISBN:978-4-296-20610-0

目次

※目次や内容、発行日等は変更になる場合があります。

第1章 蓄電池ビジネスの概要

第2章 蓄電池の市場予測

- 2-1 脱炭素がけん引する蓄電池市場
 - 脱炭素化の動きと蓄電池市場の全体動向
 - 車載用蓄電池と定置用蓄電池の概要
- 2-2 車載用蓄電池市場の展望
 - 2035年予測の前提と考え方
 - 乗用車の販売/生産台数の2035年予測
 - 車載用蓄電池の2035年に向けたトレンド予測
 - 車載用蓄電池の2035年市場予測の総括
- 2-3 定置用蓄電池市場の展望
 - 2030年予測の前提と考え方
 - 日本の2030年市場予測
 - 米国の2030年予測
 - 欧州の2030年予測
 - 定置用蓄電池の2030年市場予測の総括

第3章 蓄電池を巡る世界の政策

- 3-1 世界の蓄電池関連政策の概要
 - 世界各国が蓄電池政策を打ち出している背景
 - 世界の政策の全体動向と展望
 - コスト競争力と経験曲線
- 3-2 中国の蓄電池関連政策
 - 中国の中心戦略
 - サプライチェーンの掌握
 - 製造能力への大規模投資と価格競争力
 - 補助金など経済インセンティブによる国内需要の創出
 - 輸出規制による重要原材料の供給制限 ほか
- 3-3 欧州の蓄電池関連政策
 - 欧州の中心戦略
 - 電池規則の目的と蓄電池産業への影響
 - 電池規則の概要と主な要件
 - 欧州の情報インフラプロジェクトの概要
 - バッテリーパスポートとGlobal Battery Alliance (GBA)
 - 産業データ連携基盤「Gaia-X」と「Catena-X」
 - EU重要原材料法 (The Critical Raw Materials Act)
 - 中国製BEVに対する関税引き上げ ほか
- 3-4 北米の蓄電池関連政策
 - 米国の中心戦略
 - IRAの概要と蓄電池産業に対する4つの施策
 - 海外資本と技術をコントロールする方法
 - 蓄電池サプライチェーンに賭けるカナダ ほか
- 3-5 韓国の蓄電池関連政策
 - 韓国の中心戦略
 - 安定的なサプライチェーンの確保
 - 先端技術の開発
 - 民間の国内投資を支援
 - 国内産業生態系基盤の整備 ほか
- 3-6 日本の蓄電池関連政策
 - 日本の中心戦略
 - 国内製造基盤の確立
 - 日本の具体的な施策 ほか
- 3-7 その他の国・地域の蓄電池関連政策の動向と展望
 - インド
 - オーストラリア

第4章 蓄電池のサプライチェーン分析

- 4-1 蓄電池のサプライチェーン概観
 - サプライチェーンの基本構造
- 4-2 蓄電池サプライチェーンのプロセス別分析
 - 原料採掘から加工まで
 - 蓄電池部品の製造
 - セル・モジュール・パックの製造
 - 蓄電池メーカーからEVメーカー
 - リサイクル・リユース
- 4-3 原材料の調達を巡る動向
 - 全体動向
 - サプライチェーンの垂直統合
 - 脱中国サプライチェーン構築

第5章 定置用蓄電池のビジネスモデル

- 5-1 系統用蓄電池
 - 系統用蓄電システムの構造
 - 系統用蓄電池のプレイヤー
 - プロジェクト構造
 - マーチャント市場とPPA
 - 系統用蓄電池の用途
 - 用途①送配電インフラ関連サービス
 - 用途②VRE（変動性再エネ）の系統への統合
 - 用途③裁定取引（アービトラージ）
 - 用途④アンシラリーサービス
- 5-2 業務・住宅用蓄電池
 - 業務・住宅用蓄電池の基礎知識の整理
 - 業務・住宅用蓄電池の用途
 - 業務・住宅用蓄電池の具体的なビジネスモデル

第6章 蓄電池産業キープレイヤーの分析

- 6-1 概観
 - キープレイヤーの概観
- 6-2 蓄電池セルメーカー
 - 蓄電池セルメーカーの概観
 - 中国・寧徳時代新能源科技 (CATL) ほか
- 6-3 自動車メーカー
 - 自動車メーカーの概観
 - 中国・比亚迪汽車 (BYD Auto)
 - 米Tesla
 - ドイツVolkswagen Group ほか
- 6-4 定置用蓄電システムインテグレーター
 - 定置用蓄電システムインテグレーターの概観
 - 米Fluence Energy
 - 中国・陽光電源 (Sungrow Power Supply) ほか
- 6-5 サービス・プロバイダーおよび販売事業者
 - サービス・プロバイダーおよび販売事業者の概要
 - 米Sunrun
 - 米Sunnova Energy International
 - ドイツsonnen
 - 伊藤忠商事 ほか
- 6-6 蓄電池リユース事業者
 - 蓄電池リユース事業者の概要
 - フォーアールエナジー
 - ドイツMercedes-Benz Energy
 - 米B2U Storage Solutions
 - カナダMoment Energy ほか
- 6-7 蓄電池リサイクル事業者
 - 蓄電リサイクル事業者の概要
 - 米Redwood Materials
 - カナダLi-Cycle Corporation
 - 米Ascend Elements
 - 米Cirba Solutions ほか

第7章 蓄電池の技術開発動向

- 7-1 蓄電池を巡る技術開発の全体像
- 7-2 リチウムイオン電池の概要
- 7-3 液系リチウムイオン電池
- 7-4 全固体電池
- 7-5 半固体電池
- 7-6 リチウム硫黄電池
- 7-7 リチウム空気電池
- 7-8 リチウムイオン電池の材料
- 7-9 ナトリウムイオン2次電池
- 7-10 水系電解質を使った金属負極電池
- 7-11 レドックスフロー電池
- 7-12 ナトリウム硫黄電池
- 7-13 蓄熱式蓄電
- 7-14 力学的蓄電

グリーン・デジタル社会をつくる

インフラ事業構築 & 市場予測 2025-2050

有望26分野の市場規模・企業動向・政策／
国内外プレイヤー分析／リスク・トラブル事例

NEW!

グリーン/エネルギー、
ソーシャル/スポーツ、
モビリティ、デジタルの中から
有望26分野を選定2030年、2040年、2050年の
「資産規模」と「市場規模」を
有望26分野ごとに独自推計政策動向や先進的な取り組み、
国内外の主要プレイヤー動向
などを分野ごとに解説リスク・トラブル事例、
インフラ投資の事業モデルと
収益特性を解説急進展するグリーン・デジタル社会。
民間企業に大きなビジネスチャンスが。
有望分野、市場規模、企業動向など、
参入・投資に役立つ情報を揃えました。

日本は今、グリーン・デジタル社会の実現に向け、脱炭素をはじめとする様々な環境対策を実施したり、ものやサービスのデジタル化を推進したりしています。そこでは、太陽光発電や洋上風力発電、水素サプライチェーン、データセンター、通信タワー・基地局といった新しいインフラが不可欠です。それだけではなく。既存のインフラであっても、新しい社会の形に合わせて変化していくことが求められています。

本書は、こうしたインフラニーズの高まりをビジネスチャンスと捉え、企業のインフラビジネスへの参画を支援します。具体的には、グリーン/エネルギー、ソーシャル/スポーツ、モビリティ、デジタルの中から26の有望分野を抽出し、2030年から2050年にわたって各分野の「資産規模」と、そのうち民間による投資や流動化が予想される「市場規模」を独自に推計しています。これまでに、単独分野の推計は様々ありますが、これだけ多くの分野にわたる推計は類を見ません。

さらに、インフラビジネスを後押しする政策動向や開発投資動向、参入方法、リスク・トラブル事例、国内外の主要プレイヤーの動向など、事業戦略立案に役立つ情報を網羅してお届けします。インフラへの投資、構築・運用・保守などを新規事業として検討する企業の経営企画部門や調査部門、投資部門には欠かせない1冊です。

- 著者：インフラビジネスパートナーズ共同代表 平島 寛、菅 健彦
三井住友トラスト基礎研究所 浅川 博人、内田 力
- 編集：日経クロステック ■ レポート：A4判、約500ページ
- 2024年11月15日発行（予定）
- 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20616-2
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20618-6

目次

※目次や内容、発行日等は変更になる場合があります。

第1章

政策/市場展望

- 1-1 「新しい資本主義（2024改訂版）」と「骨太の方針2024」
- 1-2 国土形成計画
- 1-3 インフラ投資に関わる全体潮流

第2章

インフラ資産規模・
市場規模の将来推計

- 2-1 数字で見るインフラの未来
- 2-2 対象セクターと推計方法
- 2-3 太陽光発電（10kW以上）
- 2-4 陸上風力発電
- 2-5 洋上風力発電
- 2-6 バイオマス発電
- 2-7 系統用蓄電池
- 2-8 EV急速充電設備
- 2-9 送配電網
- 2-10 公営電気事業
- 2-11 水素サプライチェーン
- 2-12 燃料アンモニアサプライチェーン
- 2-13 CCS関連施設
- 2-14 上水道
- 2-15 下水道
- 2-16 工業用水道
- 2-17 スポーツ施設
- 2-18 文化・社会教育施設
- 2-19 大学施設
- 2-20 MICE施設
- 2-21 空港
- 2-22 道路
- 2-23 クルーズ船向け旅客ターミナル
- 2-24 空飛ぶクルマ関連施設
- 2-25 宇宙関連施設
- 2-26 データセンター
- 2-27 通信タワー・通信衛星・基地局
- 2-28 スマートボール

第3章

グリーン/エネルギーの動向

- 3-1 グリーン/エネルギー全体動向
- 3-2 太陽光発電
- 3-3 洋上風力発電
- 3-4 バイオマス発電
- 3-5 系統用蓄電池
- 3-6 EV充電装置
- 3-7 地域間送電網
- 3-8 水力発電
- 3-9 水素・アンモニア・合成燃料
- 3-10 CCS（二酸化炭素回収・貯留）

第4章

ソーシャル/スポーツの動向

- 4-1 ソーシャル/スポーツ全体動向
- 4-2 上工下水道
- 4-3 スポーツ施設
- 4-4 文化・社会教育施設
- 4-5 大学施設
- 4-6 MICE施設
- 4-7 インフラ維持管理・更新

第5章

モビリティインフラの動向

- 5-1 モビリティインフラ全体動向
- 5-2 空港
- 5-3 道路
- 5-4 クルーズ船向け旅客ターミナル
- 5-5 空飛ぶクルマ
- 5-6 宇宙関連施設
- 5-7 鉄道

第6章

デジタルインフラの動向

- 6-1 デジタルインフラ全体動向
- 6-2 データセンター動向
- 6-3 通信タワー・通信衛星・基地局
- 6-4 スマートボール、スマート機器
- 6-5 通信海底ケーブル

第7章

PPP/PFI/コンセッションの動向

- 7-1 官民連携事業の全体像
- 7-2 PPP/PFI推進アクションプラン
- 7-3 PFI導入促進のための環境整備
- 7-4 コンセッション事業の実績
- 7-5 主要コンセッション事業の収支
- 7-6 展望：これからのコンセッション事業

第8章

ファンド/ファイナンス動向

- 8-1 インフラファンドの役割と仕組み
- 8-2 インフラ投資に影響を及ぼす政策
- 8-3 インフラファンドの市場規模と投資家の意向
- 8-4 国内インフラファンドの動き

第9章

国内注目プレイヤーの収益・
投資状況分析

- 9-1 中長期計画に見るインフラ事業戦略
- 9-2 主要な投資家・企業の取り組み

第10章

海外注目プレイヤーの収益・
投資状況分析

- 10-1 全体動向
- 10-2 総合インフラサービス事業者
- 10-3 グリーン/エネルギー事業者
- 10-4 デジタルインフラ企業
- 10-5 海外インフラ資産運用会社
- 10-6 海外ファイナンシャルインベスター（機関投資家）

第11章

リスク・トラブル

- 11-1 最近のリスク・トラブル事例解説
- 11-2 リスク・トラブル事例一覧
- 11-3 リスクコントロール手法

第12章

インフラ投資の事業スキームと
収益特性

- 12-1 4つの視点から見るインフラ事業スキーム
- 12-2 インフラ投資の収益特性

電力調達・再エネ活用 戦略レポート

電気料金の削減方法／効果的な再エネ活用
電力調達の実態・再エネ導入意向800社調査



電力調達の
戦略が立てられる

電気料金削減、
調達最適化の方法がわかる

再エネ電力の
調達方法がわかる

独自調査 企業・自治体の
「電力調達の実態と投資計画」

電気料金の削減、再エネ導入を どう実現するか？ 電力調達の 最適化に必要な情報を網羅

電気料金の高騰が企業経営に深刻なダメージを与えています。実態調査では約800の企業や団体のうち、85.6%が電気料金値上げに直面し、経営に悪影響を及ぼしていると回答しました。電気料金の変動は、収益の見通しを大きく狂わせる企業リスクとなったのです。さらに、ESG対応で多くの企業が再エネの導入を進めています。再エネを取り巻く制度やテクノロジーは目まぐるしく変化し、料金削減と再エネ導入を両立する方法を導くのは簡単ではありません。では、どうするか。電気料金の原価構造や影響因子を正確に理解し、自社に適した戦略を立案したうえで電力調達を実行する必要があります。

本レポートは、電気料金の構造などの基礎的情報から変動因子、調達戦略の立案方法、料金削減の具体的な手法、高度な管理方法、再エネの選択法まで電力調達の最適化に必要な実務情報を網羅しました。ぜひご活用ください。

■ 著者：青柳聡史 ■ 監修：日本省電
■ 企画・編集：山根小雪（日経エネルギーNext）
■ レポート：A4判、386ページ ■ 2024年2月13日発行
■ 【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20386-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,320,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20388-8

目次

第1章 【戦略編】電気料金の上昇要因・今後の見通し

800社調査結果：電力調達実態 ●数年で2倍も 電気料金高騰が経営を直撃／電気料金高騰の要因と今後の見通し ●統計でみる電気料金高騰の実態 ほか／脱炭素・ESGへの対応

第2章 【戦略編】電力調達・削減戦略の考え方

電力調達戦略の策定 ●電力調達戦略とは何か／電気料金削減の3つの考え方 ●電気料金の構造と3つの削減方法／電気料金の主な削減手法 ●削減手法の概要① ほか

第3章 【実践・基本編】電力調達の最適化①電力契約の見直し

調達の基本は大手電力の標準メニュー／電力調達の10ステップ／電力調達戦略の立案／電力データの収集・整理／電力会社への見積もり依頼／見積もり提案の評価／価格協議・契約条件協議／切り替えに関する社内承認／申し込み手続き、契約切り替え／実績モニタリング・評価／契約更新・切り替え／契約・実績データ管理

第4章 【実践・基本編】電力調達の最適化②省エネ

契約電力・使用電力量削減の基本 ●省エネポテンシャルは大きい／契約電力・使用電力量の削減方法 ●効果のある削減方法は決まっている／電気料金単価の削減方法 ●蓄熱 ほか

第5章 【実践・基本編】電力調達の最適化③再エネ導入とESG対応

なぜ再エネ電力が必要なのか／企業に再エネ導入を迫る4要因／再エネの種類と特徴／再エネの評価軸／再エネ電力調達の基礎／再エネ電力調達のアプローチ／政府の支援制度（FIT／FIP）／環境証書／再エネ電力メニュー／需要家が再エネ電源に直接関与

第6章 【実践・上級編】電力調達の最適化④卸電力価格の活用

卸電力価格活用の考え方 ●卸調達を実現する3つの手法／市場価格連動料金 ●市場価格連動料金のメリット・デメリット／社内新電力 ●社内新電力をめぐる変化／需要シフトを伴えば太陽光の活用に ●昼間の安いJEPX活用は再エネ出力抑制を減らす

第7章 【実践・上級編】電気料金の高度な管理

高度な管理が必要な理由 ●社内共通のマスターデータを作成／管理項目の設定 ●契約データと実績データに大別できる／目的に応じた管理の実際 ●予実管理・評価① ほか

第8章 【調査編】電力調達の実態・再エネ導入意向800社調査

調査概要／企業・自治体への電気料金高騰の影響／電気料金高騰対策の実態／電力調達の実態／再エネ調達の状況 ●再エネ導入実態 ●手法別の再エネ導入状況 ほか

宇宙ビジネス 事業創出・参入戦略

有望領域・市場規模／事業の具体例75/
参入の手引き／企業の参入意向調査



有望領域と市場規模予測

業界別の宇宙利活用

新規参入への戦略

世界の宇宙ビジネス動向

キープレーヤーの戦略分析

独自調査 日本企業の参入意向

宇宙ビジネスへの挑戦、 参入検討に役立つ情報を網羅。 事業機会を具体的に解説しています

宇宙ビジネスにおける新たな事業機会が次々と生まれ、2017年に約40兆円だった市場は2040年までに120兆円規模にまで膨らむと見られています。本レポートは急速に拡大する宇宙ビジネスを俯瞰して、「宇宙環境における事業」と「地上環境における事業」の大きく2つの分野に整理。有望な事業領域9 つにおけるビジネスモデルやユースケースをふんだんに紹介。ロケット打ち上げや衛星製造といった重要領域については市場規模の予測も試みました。一方の地上環境のビジネスについては、宇宙利活用が大きな変化をもたらし得る、農業や運輸、情報通信といった注目の9 産業をピックアップ。豊富な事業例やロードマップを詳説しています。加えて新規参入の戦略と手引き、製造業を中心に参入意向を聞いた独自調査・分析など、宇宙ビジネスを新規の事業として立ち上げるために必要な情報をそろえました。

■ 著者・編集：DigitalBlast、日経クロステック
■ レポート：A4判、322ページ ■ 2023年12月8日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20313-0
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20315-4

目次

第1章 エグゼクティブサマリー〈4事業を紹介〉

宇宙ビジネスを俯瞰する ●「宇宙」が全産業共通の事業創出トピックに ●地上から深宇宙まで広がる事業領域 ●宇宙へのアクセスコストが低下 ●地上ビジネスで衛星の利活用が進む ほか

第2章 企業における宇宙ビジネス参入の意向調査

341社の調査概要 ●調査の概要と回答者のプロフィール 宇宙環境と地上環境の事業分野を提示／事業全体の現状と課題 ●現在の参入状況・意向 ●「宇宙ビジネスに展開したい」自社の独自技術／宇宙環境におけるビジネス ●宇宙環境におけるビジネスへの参入意向／地上環境におけるビジネス ●地上環境におけるビジネスへの参入意向 ほか

第3章 宇宙利活用が進む注目9産業〈36事業を紹介〉

人工衛星や宇宙特有環境を利活用 ●地上環境における宇宙ビジネスの概要／農業 ●増え続ける食糧需要に衛星を利活用／環境・資源 ●環境・資源分野での衛星活用フェーズ／建設・土木・インフラ ●建設・土木・インフラ分野での衛星活用フェーズ／情報通信 ●宇宙産業全体の4割を占める衛星インターネット／保険 ●保険業務の高度化・効率化や業界変革につながる「InsurTech」／運輸 ●運輸業界における課題と宇宙活用による解決／エンタメ・レジャー ●宇宙のテクノロジーそのものを活用したエンタメサービスが増加／製造 ●製造分野での宇宙利活用フェーズ／医療 ●宇宙環境を利用したライフサイエンス研究の可能性 ほか

第4章 新規参入の手引き〈3事業を紹介〉

新規参入への戦略 ●戦略立案の6つのポイント ●官民連携スキーム ●宇宙ビジネスとDXの融合／宇宙ビジネス新規参入への手引き ●大手企業が参入する際の具体的手順 ほか

第5章 宇宙環境の有望事業9選と重要市場規模〈26事業を紹介〉

ロケット製造から宇宙旅行まで／ロケット製造／衛星製造・運用／打ち上げ・射場／軌道上拠点／探査・資源開発軌道上サービス／地上局ビジネス／衛星データ分析／宇宙旅行／市場規模で見る宇宙ビジネス

第6章 宇宙ビジネスのキープレーヤー15選〈5事業を紹介〉

オールドスペースからニュースペースへ ●事業領域別に見るキープレーヤー一覧 SpaceX／Rocket Lab／Planet Labs／ICEYE／Synspective／QPS研究所 ほか

第7章 世界の宇宙ビジネス動向〈1事業を紹介〉

米国の取り組み ●米国政府による宇宙政策の変遷／欧州の取り組み ●欧州の宇宙政策／日本の取り組み ●宇宙基本法と宇宙基本計画／中国およびインドの取り組み ほか

デジタル&データマーケティング市場分析 2025-2027

先進137事例／生成AI活用の未来／マーケティングテクノロジー

NEW!



デジタルとデータを切り口に、マーケティング市場の全体像を眺め、自社に合った手立てを検討できる。

先進企業137社の事例を解説。「逆引き索引」から自社向き事例や打ち手を簡単に探せる

「生成AIのマーケティング活用」と「ファースト・パーティー・データ活用」の具体策が分かる

「データソース一覧」や独自の「生成AI活用の実態調査」など、独自のデータを複数掲載

5年先を見据えたマーケティングの流行を生成AIとデータの活用を重点に137の事例や注目のテクノロジーを解説。

デジタル&データマーケティング市場は転換期を迎えています。本レポートではデジタル&データマーケティング領域の高度化を受け、特に生成AIがマーケティングにもたらす変化を中心に、豊富なケーススタディー（日米中137例）、データソース（約250）、注目すべきテクノロジーやソリューションなどを解説しています。

特にケーススタディーは、業務、テクノロジー、効果などで分類し、自社にあう事例を探しやすく編集。競合企業の事例を探したり、特定のマーケティングテクノロジーを活用した事例を逆引き索引で探し出すことも可能です。

生成AIの実用化によって顧客接点の作り方が大きく変化し、「生成AIのマーケティングへの活用」は、避けて通れません。企業が生成AIを業務にどの程度活用しているかという実態調査（広告、小売り、ゲーム業界ほか）など、デジタルマーケティングにおける生成AI活用についても重点的に解説。また、クッキー規制の強化や欧米で進む個人情報保護の流れに伴い、さらに重要度が増す（企業が）直接取得する「ファースト・パーティー・データの活用」も重要テーマとして取り上げています。顧客が期待する成果（収益増、ブランド価値向上など）を得るために必要な知識を1冊で得られるレポートとなっています。

目次

※目次や内容、発行日等は変更になる場合があります。

第1章

マーケティングの未来

- 1-1 拡大し続けるデジタル&データマーケティング市場
- 1-2 デジタル&データマーケティングを理解する
- 1-3 本書の構成
- 1-4 3章ケーススタディーの読み方

第2章

生成AIで変わるデジタル&データマーケティング

- 2-1 生成AIをどう活用するか
- 2-2 生成AIの市場規模と活用の進捗
- 2-3 生成AIで変わる広告業界
- 2-4 生成AIで変わる小売り業界
- 2-5 生成AIで変わる自動車業界
- 2-6 生成AIで変わるゲーム業界
- 2-7 生成AIで変わる金融業界
- 2-8 生成AIで変わる教育業界
- 2-9 生成AI活用の実態調査

第3章

ケーススタディー

- 3-1 逆引き索引
- 3-2 ケーススタディー（国内）国内100事例
（山洋電気、パナソニック、日立製作所、ポケトーク、アソビュー、一休、イングリウッド、クラシコム、サイバーエージェント、ディップ、トレンドーズ、DROBE、Freee、LIFULL、タカラトミー、トヨタ自動車、BYD Auto Japan、ボルボ・カーズ、ミスミ、ヤマハ発動機、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、セールスフォース日本法人、TOPPANホールディングス、アサヒビール、伊藤園、おやつカンパニー、木村屋総本店、キュービー、麒麟ビール、サントリー、タカキペーカリー、日清食品、日本コカ・コーラ、ハウス食品、Mizkan、雪印メグミルク、UCC上島珈琲、I-ne、アシックス、アディダス ジャパン、アース製薬、王子ネピア、資生堂、タビオ、Dr.ルルルン、はせがわ、マンダム、山善、ラコステ ジャパン、ラッシュジャパン、イオン、グッデイ、セブン-イレブン・ジャパン、高島屋、東武ストア、バルコ、バン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、ピオセボン・ジャパン、ファミリーマート、三菱食品、ユナイテッドアローズ、ヨドバシホールディングス、銀座ルノアール、エターナルホスピタリティグループ、日本ビザハット・コーポレーション、ピーケー・ジャパンホールディングス、BLOOM、丸亀製麺、物語コーポレーション、アメリカン・エクスプレス・インターナショナル、住友生命保険、Black Card I、三井住友カード、三井住友銀行、ライフネット生命保険、伊藤忠商事、グッドバッチ、GKデザイングループ、スタック、マイナビ、明光ネットワークジャパン、よみうりランド、mederi、RIZAPグループ、レバレッジ、サンリオ、GENDA、ソニー・ミュージックレーベルズ、テレビ東京、フジテレビジョン、ANA X、JR西日本、東急、東京地下鉄、アクセンチュア、東急不動産、マイホーム、三井不動産、レオパレス21）

3-3

ケーススタディー（国外）
海外30事例
（アップル、ソノス、オッターAI、ショッピファイ、メタ・プラットフォームズ、テスラ、スターシップテクノロジーズ、Cashi Cake、Coca-Cola、Ramen Hero、イート・ジャスト、フェンダー・ミュージカル・インストゥルメンツ、ロレアル、アマゾン・ドット・コム、ウォルマート、キャピタル・ワン・フィナンシャル、Cosme Hunt、スティッチフィックス、ヨーカイ・エクスプレス、McDonald's、ペイバル、オーラヘルス、キンサ、ウォルト・ディズニー、サンフランシスコジャイアンツ、ネットフリックス、ロブロックス、ウーバー・テクノロジーズ、デルタ航空、eXpワールド・ホールディングス）

3-4 中国のBATH先端事例
中国主要事例
（バイドウ、アリババ集団、テンセント、ファーウェイ、センスタイム、アイフライテック、バイトダンス）

第4章

データマーケティング

- 4-1 データマーケティングの時代
- 4-2 ファースト・パーティー・データ活用法
- 4-3 ゼロ・パーティー・データにも目を向けよ
- 4-4 顧客が満足するパーソナライズ
- 4-5 マーケティングに活用できるデータソース

第5章

マーケティングテクノロジー&メディア

- 5-1 マーケティングテクノロジー利用実態調査
- 5-2 マーケツール導入/乗り換えの極意
- 5-3 生成AI
- 5-4 クッキーレスソリューション
- 5-5 MAツール
- 5-6 マーケティングリサーチ
- 5-7 メールマーケティング
- 5-8 DM(ダイレクトメール)
- 5-9 プレスリリース
- 5-10 UGCマーケティング
- 5-11 テレビ広告
- 5-12 音声メディア
- 5-13 リテールメディア／デジタルサイネージ
- 5-14 SNS活用 YouTube
- 5-15 SNS活用 LINE
- 5-16 SNS活用 TikTok
- 5-17 SNS活用 Instagram

■ 著者：日経クロストренд、その他外部著者
■ 編集：日経クロストренд
■ レポート：A4判、約400ページ ■ 2024年11月8日発行（予定）
■ 【書籍のみ】価格：550,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20628-5
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：825,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20630-8

シニア成長市場分析 &事業創出戦略

有望7市場の構造／シニア1000人インタビューに
基づくインサイト解剖／マーケティングメソッド／成功事例



シニア層がターゲットとなる 7つの有望市場がわかる	マーケットの構造、関連データ、 先進事例から、市場攻略の糸口が探れる
シニア特有の思考、バイアス、他世代との違いを 理解した上で実践する事業開発メソッドを解説	シニアでも使えるデジタル・UI/UXなど、 知っておきたいノウハウが満載

7つの有望・成長市場を示して徹底解説
シニア特有の事情を踏まえた
事業開発メソッドを提示

デジタルを活用する新たなシニア層の拡大により、新たなビジネスの機会、市場の拡大が見込まれます。実際、シニア向け商品・サービスを検討、強化する企業は増加の一途ですが、成功には、シニア特有のインサイトを理解して取り組む必要があります。

本レポートの著者は、会員37万人が利用するシニア向けコミュニティサイト「趣味人(しゅみーと)倶楽部」の運営やシニア向けビジネスのコンサルティングを手掛けるオースタンス(東京・渋谷)。これまで培った知見と独自のデータを基に、シニア向けビジネス開発のノウハウを解説しています。

「健食ウェルエイジング市場」「ビューティーシニア市場」など7つの有望・成長市場を提示。マーケットの構造、関連データ、先駆事例を紹介し、攻略法を解説しています。シニア特有の思考、バイアス、他世代との違いを理解した上で実践する事業開発メソッドも提示。シニアマーケット攻略に必携の一冊です。

- 著者：オースタンス ■ 編集：日経クロストренд
- レポート：A4判、約400ページ
- 2024年11月14日発行(予定)
- 【書籍のみ】予定価格：550,000円(10%税込)、ISBN：978-4-296-20316-1
- 【書籍とオンラインサービスのセット】予定価格：825,000円(10%税込)、ISBN：978-4-296-20318-5

目次	※目次や内容、発行日等は変更になる場合があります。
第0章	序章：シニアの定義と市場参入の意義
第1章	親子3世代消費市場
第2章	健食ウェルエイジング市場
第3章	アクティブ旅行シニア市場
第4章	ビューティーシニア市場
第5章	通販デジ活シニア市場
第6章	プチ贅沢シニア市場
第7章	ミドルシニア再活性化市場
第8章	シニア市場の新潮流「AgeTech」
第9章	シニア向け事業開発メソッド
第10章	シニア向けマーケティングメソッド
第11章	企業事例編
第12章	シニアマーケティングデータ集

未来ビジネス 2024-2033 全産業編

新事業企画に役立つ
厳選30のビジネスアイデア



生活者の「4大メガシフト」で 生まれる「10年後の新しい ビジネス」を提示	10年後の ビジネスを支える 「人間中心の技術」として 7領域の テクノロジーを分析	10年後のビジネスが 企業にもたらす影響を、 産業別に掘り下げて 調査分析
---	--	--

生活者の行動や
価値観の変化を調査分析し、
10年後の新ビジネスを描き出す。

本レポートでは、世界で個人の影響力が増していることに着目し、生活者の行動や価値観の変化を探索の起点としました。様々な領域で境界が曖昧になる「ノーバウンダリーシフト」、自分なりの幸福を目指す傾向が強まる「セルフシフト」、他者の概念や関係性をこれまで以上に柔軟に捉える「リレーションシフト」、環境や社会とのつながりを強く意識し持続可能性を重視する「サステナブルシフト」の4大メガシフトをベースに、独自の生活者調査を交えた分析で、30の未来ビジネスを厳選。それぞれの未来ビジネスのアイデアを「新規性」「市場性」「社会的インパクト」「技術的革新性」の4項目で評価し、「10年後の未来像」と「社会的背景」とともに提示します。さらに、未来ビジネスの影響を「自動車/モビリティ」「IT/通信」「医療/福祉」など10の産業別に分析。今後の10年で新たに生まれるビジネスの方向性を予測する、未来ビジネスの決定版レポートです。

- 監修・著者：平林 知高
(EYストラテジー・アンド・コンサルティング ストラテジックインパクト Data Driven Re-Design Strategy Teamリーダー/パートナー)
- 著者(代表)：山田 悠生
(EYストラテジー・アンド・コンサルティング ストラテジックインパクト Data Driven Re-Design Strategy Team マネージャー)
- レポート：A4判、356ページ ■ 2024年2月29日発行
- 【書籍のみ】価格：660,000円(10%税込)、ISBN：978-4-296-20436-6
- 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円(10%税込)、ISBN：978-4-296-20438-0

目次
第1章 エグゼクティブサマリー 未来ビジネスを導く考え方／「未来ビジネス2024-2033 全産業編」の構成
第2章 未来ビジネスの4大メガシフト 総論：生活者主導で進む4つの変化／ノーバウンダリーシフト：境界のない世界の出現／セルフシフト：ウェルビーイングを自在に追求 ほか
第3章 ノーバウンダリーシフトと8つの未来ビジネス 使用者が完成させる製品づくり／欲しいものをその場で受け取れる小売り・物流／自然環境に戻る家づくり／自動運転がもたらす自由な住まい／大衆化する空中移動／BMIやアバターロボットがサポートする自由な働き方／人生シミュレーター ほか
第4章 セルフシフトと7つの未来ビジネス いつの間にか健康診断／オンデマンド完全栄養食／自然に感情をケアするトランスジェンダー商品／住人の最適環境を実現する家／学習効率を高める教育支援サービス ほか
第5章 リレーションシフトと8つの未来ビジネス ツーリズムを核とした地域課題の解決／地域ぐるみで食品や生活財のシェアリング／マルチロール自走店舗／見守りや生活支援に役立つロボットインフラ／言葉にできない本音や塩梅を基に企画する商品／使い心地を伝送できる店 ほか
第6章 サステナブルシフトと7つの未来ビジネス セルフリペアパーツのデザイン販売／サブスクで完全循環する製品／自己修復する都市空間／広域環境センサー網による防災や減災／レジリエントな「農林水産工場」／ゲームとミッションで環境や社会の課題を解決するビジネス／職人ロボットとの協業
第7章 未来ビジネスを支えるテクノロジー 情報処理技術(生成AI/量子コンピューター)／IoT/センシング／人間拡張/遠隔存在/アディティブ・マニュファクチャリング(AM)/マテリアルズ・インフォマティクス(MI) ほか
第8章 産業別に見る未来ビジネス 自動車/モビリティ産業／エレクトロニクス/機械産業／建設/インフラ産業／IT/通信産業／エンターテインメント産業／医療/福祉産業／小売り/流通/卸売産業 ほか

消費トレンド2040 市場予測・ロードマップ

次の15年に生まれる商品・サービス 173



新たに生まれる 15の消費市場を独自に定義

2040年までの社会トレンドを読み解き分析。
これから生まれる15の有望市場を定義。

新市場の「市場規模」 「市場イメージ図」を提示

2025年、2030年、2040年の市場規模を推計。
新市場の構造をイメージ図から理解できる。

実現が予測される 商品・サービスの例がわかる

どのような新商品・サービスが実現されるのか。
商品・サービスのコンセプトを具体的に例示。

「ロードマップ」で 2040年までの市場を展望

いつ頃どのような消費トレンドとなっているかを
5年刻みで解説。市場進展の全貌が掴める。

前作(2022年2月発行)からここがパワーアップ!

- 地政学リスクや生成AIなど、2022年以降に顕在化した社会や技術の大きな変化を踏まえて、市場予測を刷新。
- ロードマップや図版がさらに充実、全ページをカラー化。

■ 著者：D4DR Future Perspective Research Center
■ 編集：日経クロストrend、日経クロステック
■ レポート：A4判、648ページ ■ 2024年2月13日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円(10%税込)、
ISBN: 978-4-296-20369-7
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円(10%税込)、
ISBN: 978-4-296-20371-0

次に生まれる商品・サービスは何か 市場規模はどこまで広がるか 激変する消費市場を分析します。

世界情勢の変化によりサプライチェーンは転換点を迎え、Chat GPTの登場で生成AIが社会や生活の場に急速に浸透、原料高による商品・サービスの値上げが進むなど消費者の価値観の変化や行動は、今まで以上に未来が見通しにくくなっています。次にどのような消費市場が勃興し、市場規模はどこまで広がるのか。

本レポートでは2040年をゴールに見据えて、消費の動向をマクロ視点で俯瞰しつつ、ミクロの視点でもヒットを予感させる商品やサービスを具体的に予測しています。有望な15の新市場を独自に定義し、市場規模を具体的なロジックに基づいて試算。

新製品やサービスの創出において、戦略立案のヒントとなる、173のサービスコンセプトを例示しています。さらに、市場がどのように成長・推移していくのかをトータルで見渡す「変化予測ロードマップ」では、自社が持つ既存技術や顧客セグメントを踏まえて、アドバンテージをどの市場で、どう生かせるかを検討することができます。未来の消費トレンドをつかむための全ての情報が1冊に凝縮されたレポートになっております。



2040年までの変化を
ロードマップで提示

グラフィックレコーディングで
市場を視覚化

目次

序章

「本書の読み方」、「商品・サービスのコンセプト」×「技術」逆引き表
「2040年を見通す視点 - イーロン・マスクのビジネスチェーンと未来社会にもたらすインパクト」など

【第1章～第15章】15の新市場について、9つの視点で詳解

- ① 市場の姿 ② 市場の展望 ③ 市場の構造 ④ 市場の規模 ⑤ ターゲット
- ⑥ 商品・サービスのコンセプト ⑦ 関連技術・トレンド ⑧ 関連データ ⑨ ロードマップ

第1章

ウェルネス市場

これまでのヘルスケア市場の概念に加えて、さらに精神的な幸福のための健康にまで拡張され、さらなる巨大市場になっていくことが予想される有望市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● ウェルネスツールリズム ● 運動やアクティビティプログラム など

第2章

フーディング市場

より高機能かつ高付加価値化が進む上、世界的には食糧問題も進むことを受けて、テクノロジーによるイノベーションが進む市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 食品のトレーサビリティ(産地や生育状況などの可視化、安全の担保)
● スマートホームや次世代モビリティを活用した食品宅配サービス など

第3章

個人の拡張市場

テクノロジーにより生活者個人を起点とした多くのビジネスが誕生し、従来の常識にとらわれない新しい価値観のもとで個人の身体や精神的な能力が拡張し、個を超えた集合知がもたらす可能性まで見据えた市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● BMIによる拡張情報や体験の脳への同期
● ウエアラブルデバイスによる拡張とインプットの最適化 など

第4章

自己表現市場

シンギュラリティの時代、単純労働から人類は解放され、週休3日なども進む中で、スポーツやエンタメ、アートなどの自己表現が人間の自己実現のためにもより重要なものになる市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● トレーニングのマネジメントや最適化
● XRやアバターロボットによる遠隔指導サービス など

第5章

人生学習・メタワーク市場

これまでのように一つの場所で一つの組織に属して生きている人たちが解放され、マルチな働き方によって教育が一生学び続ける学習の一部になり、多様な仕事のため、広くスキル形成を続けていくための市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 学習者やワーカーのコミュニティ
● テレプレゼンスやバーチャルスペースの提供 など

第6章

新移民市場

少子高齢化の進展の中ですでに国策として動き出した移民政策が生み出す巨大市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 生活支援サービス(住宅の提供、受診支援など)
● 日本語学習の支援サービス など

第7章

超富裕層市場

世界的に二極化が進むことで、これまでよりもさらに資産を持つような人が現れる市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 資産運用の管理や評価サービス
● 芸術品販売やオークション、芸術家とのマッチング、芸術家支援 など

第8章

デジタルBOP市場

新興国に新しいデジタルインフラが整う中で生まれる新しいビジネスチャンスの市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 海底ケーブル、低軌道衛星群、気球、無人飛行機などによる通信ネットワーク整備
● モバイルデバイス販売や貸与サービス など

第9章

相互扶助・コモンズ市場

中流の崩壊によって、多くの所得に不安を持つ人たちが増え、生きていくためには一億総中流社会として生み出された個が再びコミュニティとしての社会システムを求める市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 個人のスキルや資産の可視化とマッチング、同じ目的を持つ人同士のコミュニティ形成や運営
● 自給自足生活の推進と収入源確保の支援 など

第10章

マルチコミュニティ市場

コロナ禍を経たニューノーマル時代によって、時間と場所の制約からの解放が劇的に加速し、その結果として様々な場所に自由に住む多拠点生活をしながらこれまでの企業や家族に縛られない多様なコミュニティに所属しながら多様な仕事をするという多面的なライフスタイルを選択する市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 防災や防犯サービス(コミュニティ形成を通して、人のつながりを生かす)
● 住まいのIoT化 など

第11章

ネオモビリティ市場

自動運転車やパーソナルモビリティが普及し、次世代交通サービス(MaaS)の世界が見えてくる中、個別縦割りの交通の概念を変えるばかりか、都市のあり方そのものも変えていく市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● モビリティのシェアリングサービス
● オンデマンド型移動サービス など

第12章

個人リソースマネジメント市場

テクノロジーにより様々なリソースをID管理できる社会になることで個人の資産を管理しやすくなる市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 個人の資産の統合データ化や管理
● 個人の信用スコアリング など

第13章

社会リソースマネジメント市場

社会の資産がシェアリングエコノミーや情報銀行などによって、多くの社会システムの構造的変化をもたらす市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● 調査や測定の効率化、IoTによるモニタリング、ID管理
● インフラの流動的な利活用やマネジメント など

第14章

都市OSデータ活用市場

都市OS(基本ソフト)化し、様々なデータが公共財化して活用可能になる中でデジタルツインなど大きく生まれる新市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● センサー標準化
● データオープン化を活用した、最適化を目指すサービス など

第15章

モノの統合サプライ市場

企業の枠を超えてサプライチェーンがいよいよ社会で全体最適化されていく市場
【商品・サービスのコンセプト例】
● モノのクラウド管理サービス
● モノの移動、在庫状況、引き当てのリアルタイム可視化 など

世界EV総覧 & 技術戦略レポート2025

日米欧中韓印34社の動向解説と
280車種の特長・40項目の諸元表

NEW!

世界EV総覧
&
技術戦略
レポート2025

日米欧中韓印34社の動向解説と
280車種の特長・40項目の諸元表

日米欧中韓印34社の
EVメーカーの
技術戦略が分かる

280車種の特長、
EVのスペックを比較できる

日米欧中韓印のEV車両の
プラットフォーム動向、
ラインアップが分かる

日米欧中韓印34社の戦略・
280車種の車両仕様を総ざらい
世界のEVメーカーは何を狙い、
どこを攻めるのか？
EVの今を知るのに必携の1冊です

電気自動車（EV）の普及が遅々として進まない日本に
いると、ともすれば世界のEVシフトの動きに鈍感になりがち
です。EV減速といったニュースも最近多く見かけますが、
少し踊り場にさしかかっただけで、世界はEVに向けて大き
く動いています。中国では、2023年の新車販売台数の約
38%を新エネルギー車（EV、プラグインハイブリッド
（PHEV）を含む）が占めました。世界においても、2035年
には全世界の新車におけるEVの割合が5割を超えるとシ
ンクタンクや国際機関が予測しています。

では世界の自動車メーカーはこのEVシフトに向けてどの
ような戦略を描き、どのような車両を市場投入しているの
か。それを網羅的にまとめ、その勢いを感じられるのが本
レポートです。

日本、米国、欧州、中国、韓国、インド、ベトナムの主要
メーカー280車種のプロフィール、ブランド、技術、プラット
フォームなどの戦略と、現在市場に投入している車両の特
徴およびスペックを徹底的に調査し、分析し、まとめまし
た。メーカー34社の技術戦略と動向解説は、日経クロス
テックの記者7名が執筆しているため、非常にわかりやす
く、ポイントが明確なため、読み始めれば、一気に読み進め
られるでしょう。世界のEVを一望できる本レポートは、世界
のEV市場を知るために必須の1冊です。



オンラインサービスのセットご購入の場合、
諸元表をExcel形式でダウンロード可能です。

■ 編集：日経クロステック ■ レポート：A4判、約500ページ
■ 2024年10月31日発行（予定）
■ 【書籍のみ】価格:660,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20567-7
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円（10%税込）
ISBN:978-4-296-20569-1

目次

※目次や内容、発行日等は変更になる場合があります。

第1章 日本メーカー

- 1-1 トヨタ自動車
- 1-2 ホンダ
- 1-3 日産自動車
- 1-4 マツダ
- 1-5 スバル
- 1-6 三菱自動車

第2章 米国メーカー

- 2-1 テスラ
- 2-2 フォード
- 2-3 GM
- 2-4 リビアン
- 2-5 ルーシッド
- 2-6 ファラデーフューチャー
- 2-7 フィスカー／カルマ

第3章 欧州メーカー

- 3-1 フォルクスワーゲン
- 3-2 ステランティス
- 3-3 ルノー
- 3-4 BMW
- 3-5 メルセデス・ベンツ
- 3-6 ボルボ
- 3-7 ジャガーランドローバー

第4章 中国メーカー

- 4-1 BYD
- 4-2 広州汽車
- 4-3 吉利グループ
- 4-4 上海汽車
- 4-5 上海通用五菱汽車
- 4-6 長安汽車
- 4-7 NIO
- 4-8 合衆新能源汽车
- 4-9 小鵬汽車
- 4-10 奇瑞汽車

第5章 その他メーカー

- 5-1 現代自動車グループ
- 5-2 タタ
- 5-3 マヒンドラ
- 5-4 ビンファスト

[280車種・40項目の諸元表 掲載項目]

- 会社名
- 車種
- モデルグレード
- 出荷開始時期
- 定員
- 車両プラットフォーム
- 寸法・質量
全長 (mm)、全幅 (mm)、全高 (mm)、ホイールベース (mm)、
荷室容量 (L)、車両質量 (kg)、最小回転半径 (m)
- EV性能
電力消費 (Wh/km)、航続距離 (km)、
0-100km/hの加速時間 (秒)、Cd値、急速充電の最高出力 (kW)、
充電時間
- Euro NCAP
評価年、総合レーティング、大人 (%)、子供 (%)、
交通弱者保護 (%)、セーフティーアシスト (%)
- 駆動用電池
種類、材料系、セル製造企業、セルの形状、総電圧 (公称値) (V)、
容量 (kWh)
- モーター
種類 (前輪) (後輪)、最高出力 (前輪) (後輪)、最高速度 (km/h)、
最大トルク (前輪) (後輪)、減速機のタイプと減速比 (前輪) (後輪)
- 走行装置
ステアリング形式、サスペンション形式 (前輪) (後輪)、
主ブレーキ形式 (前輪) (後輪)、タイヤサイズ (前輪) (後輪)、
X in 1の形式、駆動方式
- 熱マネジメントシステム
冷媒種類、バッテリー冷却/加熱方式、モーター冷却方式、
冷/暖房方式
- 自動運転システム
レベル、カメラ、ミリ波レーダー、LiDAR
- 価格
- 備考

[掲載280車種の例]

トヨタ自動車：bZ4X、レクサスRZ など
ホンダ：アキュラZDX、e:Nシリーズ (中国専用車) など
テスラ：サイバートラック、モデル3、モデルY など
フォード：Mustang Mach-E、Explorer など
VWグループ：ID.Buzz、ポルシェMacan など
ステランティス：プジョーE-208、フィアット500e など
BYD：SEAL (海豹)、元PLUS、DENZA N7 など
吉利グループ：銀河E5、Zeekr001、極越07 など
上海汽車：MG 4 EV、MG Cyberster、MAXUS MIFA 9 など

吉利汽車 「ZEEKR 007」 徹底分解 全体編

15分急速充電、中国製SiCインバーター、LiDAR… 分解すれば、ここまで分かる



中国EVの今後の
開発方針や
設計思想が分かる

技術習熟度など
知っておくべき情報を
多数掲載

分解工程が分かる
映像を収録したDVDが付属

購入者限定
「分解部品の無料見学会」
を開催

Volvoの親会社 吉利汽車の最新EVを 分解調査 専門家が注目する技術力と 開発の方向性を読み解く

Volvoの親会社である中国・吉利汽車 (Geely) が電気自動車 (EV) 展開を本格化させています。同社はEVブランドとして「ZEEKR」を2021年に立ち上げ、テスラ対抗車である最新EV「007」を2024年1月に発売しました。2024年に最も伸びるEVブランドの一つとして注目が集まっています。さらに、2025年には日本市場への進出も表明しています。

特徴は15分で急速充電できる自社開発で内製化したリチウム二次イオン電池と、800Vの充電システムを搭載していること。分解車両の四輪駆動車は出力475kWで、リア駆動ユニットのインバーターには中国製SiCパワー半導体を採用。車体はリアフロアに7200トン級のギガキャストを用いた大型アルミダイキャストを採用しています。

電装品としては、「スマートドライビングバージョン」と呼ぶ機能を備えており、LiDARに加えて、カメラ12個、ミリ波レーダー5個を用いて、NVIDIAのSoC「DRIVE Orin」を2個搭載した水冷車載コンピューターによって独自のADASを実現しているほか、最新の自動駐車システムを装備しています。

また、「オールインスマートライトカーテン」と呼ぶ1711個のLEDを組み込んだディスプレイをヘッドライト上部に装備し、外部にいる人や車に向けて映像や文字を表示して新たなコミュニケーションツールを提案しています。

今後の世界のEVをリードしていく中国メーカーの開発方針や設計思想、技術習熟度を知る上で知っておくべき情報を多数掲載していますので、ぜひご活用ください。

目次

第1章 総論

第2章 パワートレイン

パワートレイン概略／パワートレインの電気接続／リア駆動ユニット／フロント駆動ユニット／リアモーター／フロントモーター／リアインバーター／フロントインバーター／リア減速機／フロント減速機／車載充電器とDC-DCコンバーター／電池パック／電池セル／熱マネジメントシステム

第3章 シャシー

シャシー概略／フロントサスペンション／リアサスペンション／電動パワーステアリング／ブレーキシステム／フロントブレーキ／リアブレーキ／ペダル／タイヤとホイール

第4章 車体

車体概略／プラットフォーム／フロア／フロントドア／リアドア／フロントフード／フロントフェンダー／ルーフ／リアフェンダー／バックドア／フロントバンパー／リアバンパー／アンダーカバー

第5章 内装部品

内装概略／インストルメントパネル／センターコンソール／ステアリング周辺／ルーフヘッドライニング／フロントシート／リアシート／ステアリングメンバー／フロアマット

第6章 電装品

電装品概略／フロントカメラユニット／LiDAR／フロントミリ波レーダー／リアミリ波レーダー／アラウンドビューモニター／超音波センサー／空調システム／中央ディスプレイ／液晶メーター／ヘッドアップディスプレイ／通信モジュール／オーディオシステム／キーレスシステム／アンテナユニット／エアバッグシステム／ヘッドライトユニット／テールライト／サイドミラー／NFC内蔵Bピラー／車両接近通報装置／TPMS／ヒューズボックス／12V蓄電池 (リチウムイオン電池)

第7章 ECU

ECU概略／車載コンピューター／ゲートウェイECU／マルチメディア用ECU／パワー系ECU／ボディ系ECU



インバーター、モーター、電池、シャシー、
車体、内装部品、電装品、ECU…
500点以上の画像を掲載し、分かりやすく解説!

■ 監修: 日経BP 総合研究所 ■ レポート: A4判、約500ページ
■ 付属DVD: 1枚 (分解映像を収録) ■ 2024年10月31日発行
■ 【書籍のみ】価格: 880,000円 (10%税込)、
ISBN: 978-4-296-20506-6
【書籍とオンラインサービスのセット】価格: 1,320,000円 (10%税込)、
ISBN: 978-4-296-20508-0

生体センシング 最前線2030 モビリティー編

自動車・モビリティー分野を100年に
1度の変革に導く生体センシング技術

NEW!



これからの10年を担う可能性がある
スタートアップ67社、大手・中小・大学33社を選定

各社の概要、注目ポイント、技術開発の進展度、
主な論文情報、資金調達状況などを分析

車載センサー、カメラ、シート／
ハンドル、小型端末、ウェアラブルの
5つの領域に分類、分析

2030年に向けた生体センシングの
市場トレンドと関連する市場の成長を解説

自動運転やMaaSの革新を支える 生体センシング技術 2030年を担う 注目企業100社の技術と動向を展望

生体センシングは、2030年に向けて自動車・モビリティー分野の変革を支える中心技術です。開発競争が加速する自動運転やMaaSはもちろん、物流や配送のビジネスでも、生体センシングの最新動向を知らずして未来を語れなくなりました。例えば、車外のヒト・モノの存在をセンシングし、危険を回避する技術は自動運転に必須の技術。運転者の健康状態をリアルタイムにモニタリングし、眠気・疲労・体調やストレス・感情、アルコール摂取などを検知するDMS（運転者監視システム）は、交通事故数の低減はもちろん、長距離運転業務に携わる従業員の管理など、2024年問題でクローズアップされる様々な社会問題の解決に寄与します。本レポートは、モビリティー分野におけるセンシング技術を提供形態別に車載センサー、カメラ、シート/ハンドル、小型端末、ウェアラブルの5つの領域に分類。各領域で2030年に向けた新ビジネスを担う可能性があるスタートアップ企業67社、大手・中小企業や大学33社、合計100社を選定し、各社が開発するテクノロジーの概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報などをまとめています。

■ 監修：リンカーズOI研究所
■ レポート：A4判、180ページ ■ 2024年10月10日発行
■ 【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20599-8 ※書籍のみの販売はありません。

目次

※目次や内容は変更になる場合があります。

第1章 総論

対象産業 ●ヘルスケア分野 ●モビリティー分野
センシング対象 ●血糖値 ●心電・心拍 ●血圧 ●栄養 ●組織・臓器 ほか
センシング技術の手法 ●光学 ●電気信号 ●機械量 ●音 ●生化学／電気化学 ほか
注目スタートアップ企業の選定方法 ●選定基準
技術開発の直近動向 ●センシング技術の高度化 ●自動運転の普及への対応
2030年に向けた技術開発の方向性と市場トレンド ●2030年の生体センシング ほか

第2章 車載センサー

スタートアップ企業：米国 ●Origin Wireless社 ●Voyant Photonics社 ほか
スタートアップ企業：イスラエル ●Vayyar Imaging社 ●Opsys Tech社 ほか
スタートアップ企業：日本 ●ArchiTek ●ひびきの電子 ●ハイパーデジタルツイン ほか
スタートアップ企業：その他の国・地域 ●Novelda社 ●Hangzhou Luowei Technology社 ほか
中小企業／大手・中堅企業 ●Eye-Net Mobile社 ●バル技研 ●アイシン ほか
大学 ●Columbia University ●Texas Tech University ほか

第3章 カメラ

スタートアップ企業：米国 ●Kodiak Robotics社 ●Phantom AI社 ほか
スタートアップ企業：日本 ●ティアフォー ●アジラ ●ナノルクス ●TakumiVision
スタートアップ企業：その他の国や地域 ●Binah.ai社 ●Eyeware Tech社 ほか
中小企業 ●Cipia Vision社 ●Datik社 ●FMSi社 ●Smart Eye社 ほか
大手・中堅企業 ●BHTC社 ●IAV社 ●Opel Automobile社 ●三菱電機 ほか
大学 ●Rice University ●Ud'A ●Universität St.Gallen

第4章 シート／ハンドル

スタートアップ企業 ●Footfalls Smartex社 ●POSH WELLNESS LABORATORY ほか
大手・中堅企業／大学 ●JUKI ●トヨタ紡織 ●Southwest Petroleum University

第5章 小型端末

スタートアップ企業 ●Owlstone Medical社 ●Inovise Medical社 ほか
中小企業／大手・中堅企業 ●ACS社 ●SOBR Safe社 ●Dräger社 ●大日本印刷

第6章 ウェアラブル

スタートアップ企業：米国 ●Element Science社 ●Linus Health社 ほか
スタートアップ企業：その他の国や地域 ●Grapheal社 ●RDS社 ●Senti Tech社 ほか
中小企業／大手・中堅企業 ●Alcohol Monitoring Systems社 ●Safety Biometrics社 ほか

生体センシング 最前線2030 ヘルスケア編

新ビジネスのタネとなる基礎研究から、
商品・サービスの普及が期待される技術まで

NEW!



これからの10年を担う可能性がある
スタートアップ72社、大手・中小・大学28社を選定

各社の概要、注目ポイント、技術開発の進展度、
主な論文情報、資金調達状況などを解説

血糖値、心電・心拍、血圧・栄養、呼吸、
脳、睡眠、生体音など11分野に分類、分析

2030年に向けた生体センシングの
市場トレンドと関連する市場の成長を解説

ヘルステックの中核となる 生体センシング技術 2030年に向けた 先進企業100社の技術と動向を俯瞰

生体センシングは「ヘルステック（医療・健康×テクノロジー）」を実現し、2030年に向けてヘルスケア分野に革新をもたらす中核技術です。開発技術は多岐にわたります。継続的にバイタルサインをリアルタイムにモニタリングすることで、個人の健康管理から、疾患の予防や早期発見、治療・診断に至るまで、医療・健康分野の様々な領域を支える極めて身近な存在となるからです。多様なセンシング技術と、AI（人工知能）技術を駆使しながら、睡眠の質の可視化やフィットネスのような健康用途をはじめ、個別化医療（パーソナライズド・メディシン）の提供や手術時の臓器の状態把握といった高度な医療用途も含めて、大小多くの企業による新しい価値の提供を目指す競争が激化しています。本レポートは、生体センシング技術を血糖値、心電・心拍、血圧・栄養、呼吸、脳、睡眠、生体音など11分野に分類。各分野で、2030年に向けた新ビジネスを担う可能性があるスタートアップ企業72社、大手・中小企業や大学28社、合計100社を選定し、各社が開発するヘルステックの概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報などをまとめています。

■ 監修：リンカーズOI研究所
■ レポート：A4判、212ページ ■ 2024年10月10日発行
■ 【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20596-7 ※書籍のみの販売はありません。

目次

※目次や内容は変更になる場合があります。

第1章 総論

対象産業／センシング対象／センシング技術の手法／注目スタートアップ企業の選定方法 ほか

第2章 血糖値

スタートアップ企業 ●GlucoModicum社 ほか／中小企業／大手・中堅企業／大学

第3章 心電・心拍

スタートアップ企業 ●InfoBionic.Ai社 ほか／中小企業 ●iRhythm Technologies社 ほか

第4章 血圧／栄養

スタートアップ企業 ●Aktia社 ほか／大手・中堅企業／大学 ●カゴメ ほか

第5章 組織・臓器

スタートアップ企業 ●Exo Imaging社 ほか／大手・中堅企業／大学 ●花王 ほか

第6章 汗・唾液・尿

スタートアップ企業 ●Autonomous Medical Devices社 ほか／中小企業

第7章 呼吸

スタートアップ企業 ●Meta Flow社 ほか／中小企業 ●Fossil Ion Technology社

第8章 体温／体動

スタートアップ企業 ●Withings社 ほか／中小企業／大学 ●BTS Bioengineering社 ほか

第9章 脳

スタートアップ企業 ●エルビクセル ほか／大手・中堅企業／大学 ●筑波大学 ほか

第10章 睡眠／ストレス・感情

スタートアップ企業 ●Onera Technologies社 ほか／中小企業／大手・中堅企業

第11章 生体音

スタートアップ企業 ●MICIN ほか／中小企業／大手・中堅企業 ●オンキヨー ほか／大学

第12章 フェムテック

スタートアップ企業 ●Bellabeat社 ほか／中小企業 ●iXensor社

デジタルヘルス 未来戦略

有望市場・
調査分析編

健康・医療・介護の市場予測・開発動向分析
「デジタル医療」生活者・医療従事者14000人の利用意向
主要プレイヤーの戦略・動向、有力スタートアップ100社調査



有望15分野の
市場予測・開発動向

「デジタル医療」14000人調査
生活者／医療従事者の認知度と利用意向

主要プレイヤーの動向・
事業戦略レポート

有力スタートアップ
100社調査

デジタル医療の実用化がさらに加速。 有望市場「デジタルヘルス」で新たな ビジネスチャンスが生まれています

健康・医療・介護の現場に最新技術の導入が進み始めたことで、医療機器メーカーや製薬会社など既存のプレイヤーに加え、住宅や食品、スポーツ、旅行、保険、電機といった業界が「デジタルヘルス」分野において、それぞれの強みを生かした新たなビジネスの創出に動いています。

本レポートでは、ヘルスケア関連の新ビジネス創出を狙う皆さまに役立つ、技術や市場、企業の動きを分析、整理しました。まず、今後の有望分野として15のテーマを選定し、市場規模を予測。また、生活者/医療従事者14000人を対象に、15分野について認知度や利用意向を調査しています。また、デジタルヘルス分野の注目プレイヤー10社について、その事業戦略を分析。さらに、有力スタートアップ100社の取り組みについても調査・分析しています。拡大するデジタルヘルス市場での事業計画立案にお役立ていただける一冊です。

■ 編集：日経BP 総合研究所
■ レポート：A4変型判、480ページ
■ 2023年12月20日発行
■ 【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20389-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,078,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20391-8

目次

第0章 プロローグ 異業種参入が待ち望まれるデジタルヘルス市場

第1章 有望15分野の市場予測・開発動向分析

「医療DX」への期待と現実／オンライン診療／オンライン薬局／PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）／ゲノム医療／再生医療／がんスクリーニング／治療用アプリ／メンタルヘルス対策／認知症対策／リハビリ支援／不妊治療支援／画像診断支援AI／ウェアラブル医療機器／手術支援ロボット／体内埋め込みデバイス

第2章 「デジタルヘルス」15分野
生活者5000人の認知度・利用意向調査

最新技術・サービス普及のヒントを探る
5000人の健康・病気への不安意識を分析
デジタルヘルス15分野の全体分析 ●15分野に対する認知度/魅力度/利用意向
デジタルヘルス15分野の認知度と利用意向 ●15分野について、属性別（性別・年齢層別・家族別・職業別・世帯年収別など）に「認知度/魅力度/利用意向/前回調査との比較」を分析

第3章 「デジタルヘルス」15分野
医療従事者9000人の認知度・利用意向調査

デジタルヘルス15分野の全体分析 ●15分野に対する認知度/有用性/利用意向
デジタルヘルス15分野の認知度と有用性、利用意向 ●15分野について、属性別（医師/非医師・開業医/勤務医・診療科など）に「認知度/有用性/利用意向」を分析
生活者と医療従事者の比較分析 ●生活者と医療者の8割以上が「オンライン診療」を認知 ●「体内埋め込みデバイス」の魅力度、生活者と医療者で大きな差 ●利用意向の差が最も小さい「がんスクリーニング」

第4章 注目プレイヤーの動向・事業戦略分析

【動向分析】製薬企業／中外製薬／武田薬品工業／【動向分析】生命保険企業／日本生命保険／第一生命保険／【動向分析】IT企業／NTTグループ／ディー・エヌ・エー／【動向分析】商社／住友商事／伊藤忠商事／【動向分析】製造業/電機メーカー／富士通／帝人

第5章 有力スタートアップ100社、2030年への事業戦略

有力スタートアップ100社、事業領域・マッピング分析
有力スタートアップ100社、事業戦略・業務提携意向調査

テクノロジー・ ロードマップ2023-2032 医療・健康・食農編



「生活の質の向上」
「社会的課題の解決」
「ビジネス機会の拡大」
という三つの視点を設定

AIと医療、遠隔治療、
AI創薬、腸内デザイン、
フードテック、スマート農業
など注目テーマの
技術進化を予測

デジタルと
ライフサイエンスの
融合で生まれる
新ビジネスが分かる

デジタルとライフサイエンスの 融合で生まれる新ビジネス。 イノベーションを起こす 80テーマを選定、今後10年の 技術進化を予測する。

ウィズコロナ/アフターコロナの時代において、医療、健康、食料・農業の分野では、デジタルトランスフォーメーション(DX)などのデジタル技術とライフサイエンスの融合による新たな価値の創造が期待されます。この変化を捉え、本レポートはイノベーションを起こす80テーマについて、「生活の質の向上」「社会的課題の解決」「ビジネス機会の拡大」という三つの視点を設定し、分析を深めました。「介護IT」「生殖医療支援」「手術DX」「3Dフードプリンティング」「スマートセルインダストリー」「香りビジネス」「BMI（Brain Machine Interface）」などを新規テーマに加え、市場価値と時流の変化に合わせて進化する今後10年の技術の変遷を予測します。

■ 著者：出川 通、ほか83名
■ レポート：A4判、394ページ
■ 2023年3月1日発行
■ 【書籍のみ】価格：495,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20168-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：742,500円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20170-9

目次

序章 「テクノロジー・ロードマップ」の考え方と活用法

第1章 健康

1. 生活の質の向上 ●AIプロテオミクス ●予防医療 ●見守り/宅内外センシング ●EBH (Evidence Based Healthcare) ●アンチエイジング/からだ年齢診断 ●健康寿命 ●リハビリテーション ●アシストスーツ ●サーカディアンリズム ●睡眠 ●環境と体調変化 ●口腔ケア ●腸内デザイン ●介護ロボット
2. 社会的課題の解決 ●ウイルス検査 ●先制医療 ●認知症対策 ●疲労科学 ●介護IT ●健康ステーション ●プライマリケアシフト ●健康経営
3. ビジネス機会の拡大 ●ホーム医福食農テック ●ウェアラブル/ベースタブル ●POCT (Point Of Care Testing) ●非侵襲型生体センサー ●スマートウェア ●ゲノムビジネス ●スポーツビジネス ●インシュアテック

第2章 医療

1. 生活の質の向上 ●精密医療 ●再生医療 ●がん免疫療法 ●脳梗塞/心筋梗塞対策 ●糖尿病対策 ●遺伝子解析医療 ●再生臓器 ●体内埋め込み型デバイス ●BMI (Brain Machine Interface) ●人工網膜
2. 社会的課題の解決 ●AIと医療 ●がん医療 ●生殖医療支援 ●医療ビッグデータ ●医療情報アプリ ●スマートホスピタル ●手術DX ●ゲノム編集 ●スマート治療室 ●在宅医療 ●遠隔医療/オンライン診療/デジタル療法
3. ビジネス機会の拡大 ●多がん早期検出 ●先進医療機器 ●画像診断 ●手術支援ロボット ●内視鏡 ●AI創薬 ●DNAチップ/シーケンサー/PCR ●医療インバウンド ●医療情報システム/医療ソフトウェア ●薬局マネジメント

第3章 食料/農業

1. 生活の質の向上 ●高齢化と食 ●健康/運動と食 ●加工食品 ●機能性食品 ●個別化食
2. 社会的課題の解決 ●食の安心・安全 ●食品トレーサビリティ ●環境農業 ●食育/地域活性化 ●食(穀物)のエネルギー利用
3. ビジネス機会の拡大 ●代替フード ●スマート農業 ●スマートセルインダストリー ●アグロメディカルフーズ ●細胞農業 ●バイオエコノミー ●AgriFood Tech ●3Dフードプリンティング ●香りビジネス